

令和2年版



交 通 白 書
ダ イ ジ ェ ス ト

交通安全
人も車もソーシャルディスタンス

沖縄県警察・沖縄県交通安全協会連合会

沖 縄 県 警 察

は し が き

令和2年中の本県の交通事故（人身事故）は、

発生件数 2,808件（前年比 -1,267件）（増減率 -31.1%）

死者数 22人（前年比 - 14人）（増減率 -38.9%）

負傷者数 3,290人（前年比 -1,571人）（増減率 -32.3%）

で、各種交通安全対策の推進はもとより、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う社会活動の制限も相まって、発生件数、死傷者数ともに大幅に減少し、平成24年以降9年連続で減少となったほか、特に飲酒絡みの事故件数及び交通事故死者数については統計上最少となりました。

しかしながら依然として飲酒運転で検挙される者が全国上位にあるほか、高齢者の死者が全体の半数近くを占めるなど、県内の交通情勢は決して楽観視できる状況ではありません。

また、これらの交通事故の多くは、追突や出会い頭、右左折事故によるもので、交通事故全体の約7割を占めています。

特徴としましては、

- ① 交通事故に占める飲酒絡み事故の構成率が高い（全国平均の約1.8倍）
- ② 死傷者に占める二輪車乗車中の構成率が高い（全国平均の約1.9倍）
- ③ 若年者（16歳～24歳）運転者の人身事故の構成率が高い（全国ワースト1）
- ④ 交差点事故の構成率が、人身事故の約6割を占める

などが挙げられます。

こうした状況を踏まえ、沖縄県警察としましては、令和3年の交通警察活動の重点を**飲酒運転根絶及び交通事故抑止対策の推進**と定めた上で、

「交通安全 人も車も ソーシャルディスタンス」

を年間スローガンに掲げ、飲酒絡みの事故や二輪車・若年者の事故、高齢者の事故等の総合的な交通事故抑止対策を定めた

交通事故抑止総合プラン「美ら島2021」

に基づいて、県や市町村、交通関係機関・団体と連携を強化した各種交通事故抑止対策を積極的に推進しているところであります。

県民の皆様には、交通事故のない日本一安全で安心な沖縄県を実現するために、交通ルールを遵守し、正しい交通マナーを実践して交通事故防止に努めていただきますようお願いいたします。

本書は、県民の皆様方に県内の交通事故の実態を知っていただき、悲惨な交通事故を防止するための交通安全対策の資料として活用していただければ幸いです。

令和3年3月

沖縄県警察本部交通部

用語の意味

本書における用語の意味は、下記のとおりである。

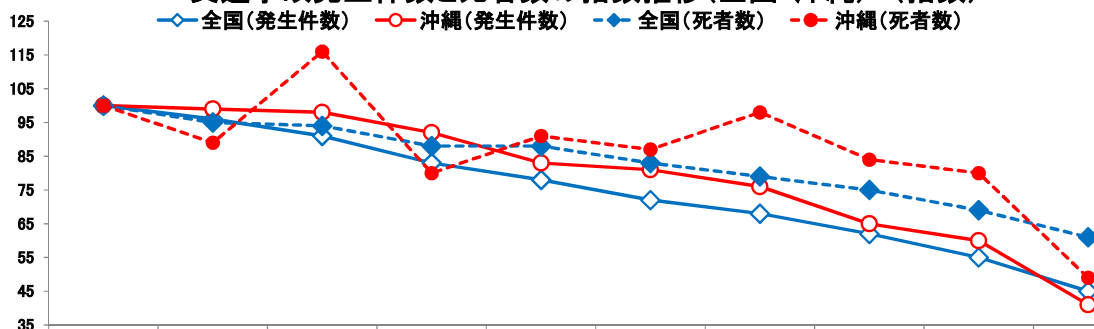
- 1 「交通事故」とは、道路交通法第2条第1項第1号に規定する道路において、車両、路面電車及び列車の交通によって起こされた事故で、人の死亡又は負傷を伴うもの(人身事故)並びに物損事故をいう。
※ 本書(交通白書ダイジェスト版)では、人身事故を交通事故と表現しています。
- 2 「死亡」(「死者」)とは、交通事故によって、発生から24時間以内に亡くなった場合(人)をいう。
- 3 「重傷」(「重傷者」)とは、交通事故によって負傷し、1箇月(30日)以上の治療を要する場合(人)をいう。
- 4 「軽傷」(「軽傷者」)とは、交通事故によって負傷し、1箇月(30日)未満の治療を要する場合(人)をいう。
- 5 「負傷」(「負傷者」)とは、「重傷」(「重傷者」)と「軽傷」(「軽傷者」)の合計をいう。
- 6 「第1当事者」とは、最初に交通事故に関与した車両等の運転者又は歩行者のうち、当該交通事故における過失が重い者をいい、また同程度の場合には被害が軽い者をいう。
- 7 「事故類型」とは、事故を当事者の種類(人または車両)によって類型化し、次いで当事者の事故時の行動等(動き、位置、衝突物等)によって更に細かく分類したものである。
- 8 「状態」とは、当事者の事故時の状態(自動車運転中、自動車同乗中、歩行中等)をいう。また「乗車(用)中」とは、運転中と同乗中の合計をいう。
- 9 「昼」とは、日の出から日没までの間をいう。
うち「昼明」は、日の出から1時間以内の範囲、「昼暮」は日の入前の1時間以内の範囲をいう。
- 10 「夜」とは、日没から日の出までの間をいう。
うち「夜暮」は、日の入後の1時間以内の範囲、「夜明」は日の出前の1時間以内の範囲をいう。
- 11 「歩行者」とは、道路上を歩行中、又は走行中の人をいう。
(道路作業中の者、路上遊戯中の者、路上にたたずんでいる者も含む)
- 12 「若年者」とは、年齢が16歳～24歳の者をいう。
- 13 「子供」とは、中学生以下の者をいう。
- 14 「高齢者」とは、年齢が65歳以上の者をいう。
- 15 構成率とは、全体(総計)に占める各項目等の割合をいう。
- 16 指数は、平成23年を100とした場合の令和2年の値をいう。

目 次		
第1	交通事故の発生状況の推移と特徴	4
1	交通事故発生状況推移(全国・九州比較)	4
2	沖縄県の交通事故発生件数・死者数・負傷者数の推移	5
3	市町村別交通事故発生状況及び居住地別飲酒運転検挙状況	7
4	飲酒絡み事故発生状況	10
5	二輪車事故発生状況	11
6	レンタカー事故発生状況	12
7	自転車事故発生状況	13
8	歩行者の事故発生状況	14
9	子供(中学生以下)の事故発生状況	15
10	高校生の事故発生状況	16
11	若年者(16歳～24歳)の事故発生状況	17
12	高齢者(65歳以上)の事故発生状況	18
13	外国人関連事故発生状況	19
14	路上横臥事故発生状況	20
第2	令和2年中の交通事故発生状況	21
15	月別発生状況	21
16	時間帯別発生状況	21
17	曜日別発生状況	22
18	昼夜別発生状況	22
19	路線別発生状況	23
20	道路形状別発生状況	23
21	交差点事故発生状況	24
22	事故多発交差点	24
23	事故類型別発生状況	25
24	年齢層別発生状況	26
25	法令違反別・年齢層別発生状況	26
26	年齢層別死傷者の状況	27
27	状態別死傷者の状況	27
28	シートベルト着用状況	27
第3	交通指導取締状況	28
29	交通違反検挙状況	28
30	暴走族等検挙状況	29
31	ひき逃げ発生検挙状況	29
第4	運転免許	30
32	運転免許人口の推移	30
33	点数制度	30
34	行政処分執行状況の推移	30
35	運転免許証自主返納制度	31
36	高齢者講習と認知機能検査	31
第5	交通規制、交通安全施設	32
37	一般道路の交通規制実施状況	32
38	信号機の設置状況	33
第6	各種交通事故防止対策	34
39	飲酒絡み事故防止対策	34
40	二輪車事故防止対策	36
41	子供の事故防止対策	37
42	自転車事故防止対策	38
43	シートベルト・チャイルドシート着用促進対策	38
44	高齢者の事故防止対策	39

第1 交通事故の発生状況の推移と特徴

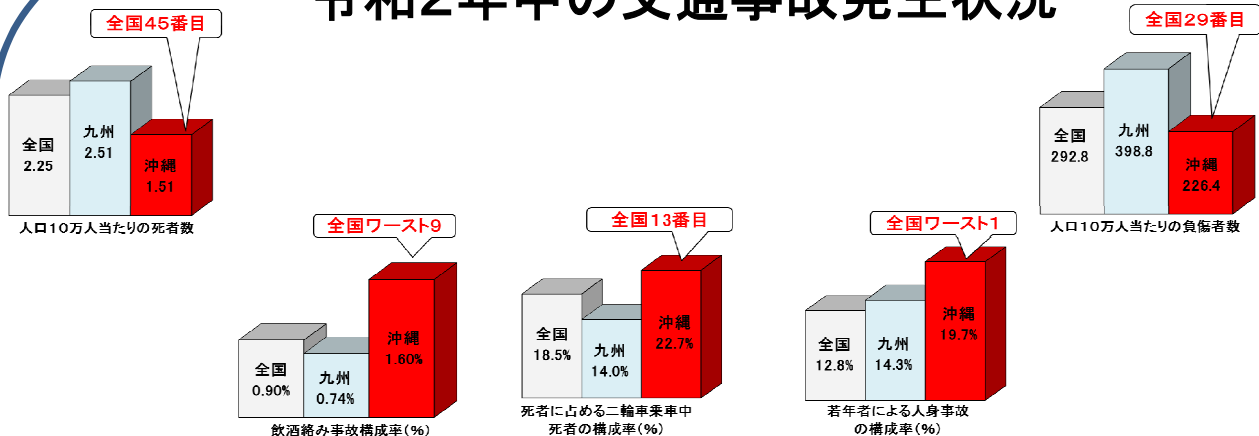
1 交通事故発生状況推移(全国・九州比較)

交通事故発生件数と死者数の指数推移(全国・沖縄) (指数)



	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
全国(発生件数)	692,084	665,157	629,033	573,842	536,899	499,201	472,165	430,601	381,237	309,178
沖縄(発生件数)	6,788	6,697	6,664	6,242	5,621	5,491	5,168	4,435	4,075	2,808
全国(死者数)	4,691	4,438	4,388	4,113	4,117	3,904	3,694	3,532	3,215	2,839
沖縄(死者数)	45	40	52	36	41	39	44	38	36	22

令和2年中の交通事故発生状況



※「人口当り」は10万人当りの算出に用いた人口は総務省統計資料「人口推計」(令和元年10月1日現在)による。

全国・九州比較

県内の交通事故による死者数は、人口10万人当たりで全国45番目(1.51人)、負傷者数は全国29番目(226.4人)ですが、交通事故発生件数は、全国では16年連続で減少し、本県は9年連続の減少となりました。

県内の交通事故の特徴

県内の交通事故の特徴としては、

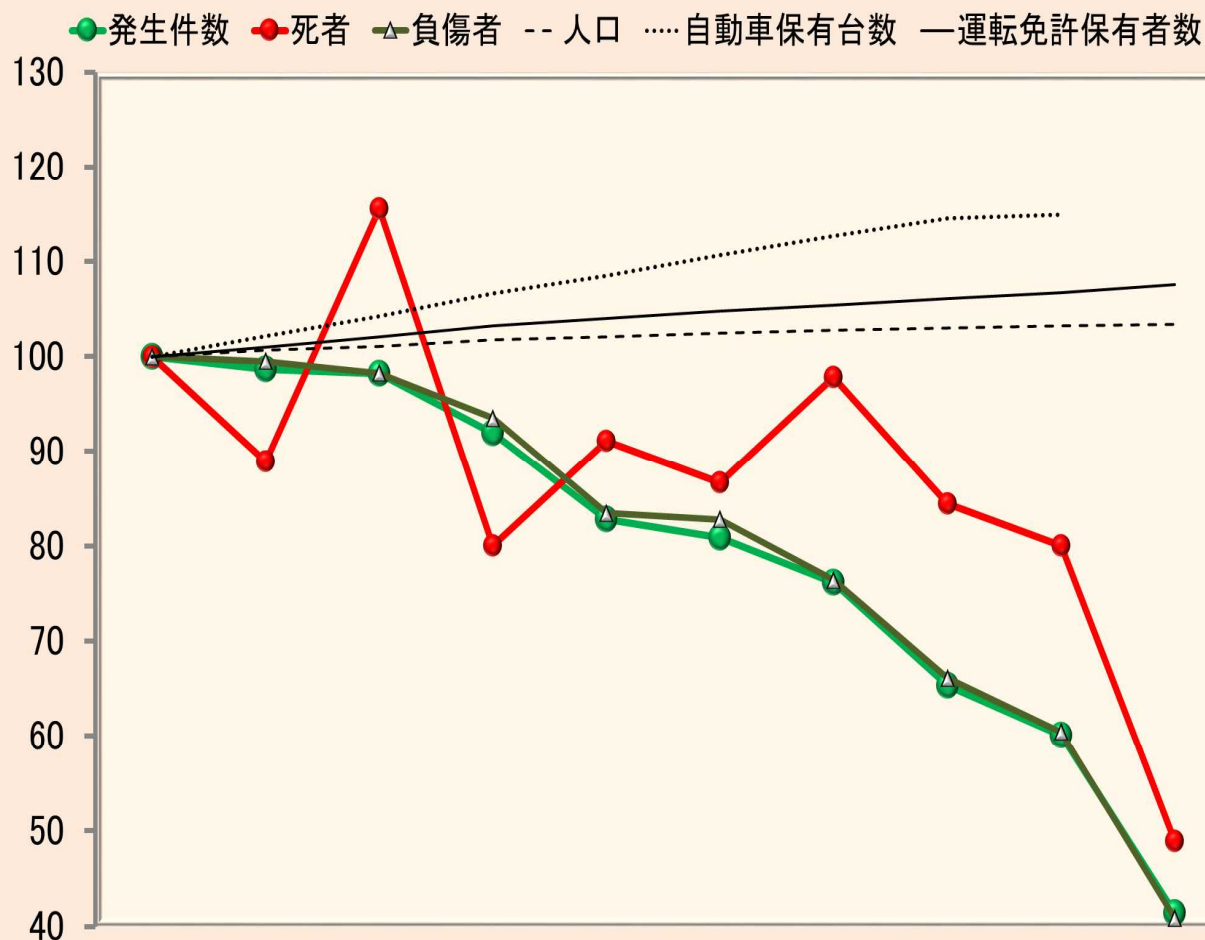
- 交通事故に占める飲酒絡み事故の構成率が高く、全国ワースト9
- 死者に占める二輪車乗車中死者の構成率が高く、全国13番目
(負傷者に占める二輪車乗車中の負傷者の構成率は全国4番目)
- 若年者(16歳～24歳)が原因となった人身事故の構成率が高い(全国ワースト1)
- 全事故の59.0%が交差点において発生(全国平均56.1%より高い)

総合的な交通事故抑止対策

沖縄県警察では、令和2年の交通事故発生状況を踏まえ、交通事故のない安全で安心な「美ら島沖縄」を目指し、総合的な交通事故抑止対策として交通事故抑止総合プロジェクト「美ら島2021」を定め、飲酒運転事故防止対策などの各種事故防止対策を推進しております。

2 沖縄県の交通事故発生件数・死者数・負傷者数の推移

交通事故発生状況の推移(指数)



年 別	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
発 生 件 数	6,788	6,697	6,664	6,242	5,621	5,491	5,168	4,435	4,075	2,808
死 者	45	40	52	36	41	39	44	38	36	22
負 傷 者	8,045	8,003	7,906	7,523	6,714	6,661	6,145	5,318	4,861	3,290
人 口	1,413,583	1,422,938	1,428,817	1,438,472	1,443,123	1,448,656	1,453,208	1,456,122	1,458,686	1,461,010
自動車保有台数	1,012,377	1,033,795	1,055,604	1,079,579	1,098,704	1,120,414	1,140,887	1,159,132	1,178,424	1,184,974
運転免許保有者数	890,345	899,432	908,737	918,948	926,246	932,705	938,415	944,701	950,390	957,685

注1 人口は、住民基本台帳による。

2 車両台数は国土交通省統計資料「自動車保有車両数月報(各年12月末、令和2年は公表待ち)」による。

(排気量125CC以下の原付一種・原付二種・小型特殊車両は含まない。)

3 運転免許保有者数は、警察本部運転免許課の資料による。

4 上記グラフの指数は、平成23年を100とした場合の各年の値。

沖縄県では、人口、自動車保有台数、運転免許保有者数が年々増加しているが、交通事故は9年連続で減少しました。

交通事故発生状況の推移(昭和22年～令和2年)

年	交通事故発生件数		死者数		負傷者数	
	発生件数	指数	死者数	指数	負傷者数	指数
昭和22年	-	-	106	86	264	8
23年	-	-	55	45	152	4
24年	-	-	62	50	211	6
25年	-	-	93	76	441	13
26年	-	-	105	85	485	14
27年	-	-	89	72	469	14
28年	-	-	107	87	643	19
29年	-	-	72	59	570	17
30年	-	-	51	41	630	19
31年	-	-	97	79	681	20
32年	-	-	76	62	780	23
33年	-	-	78	63	1,058	31
34年	-	-	65	53	1,043	31
35年	-	-	83	67	1,315	39
36年	1,284	49	84	68	1,416	42
37年	1,194	46	70	57	1,308	39
38年	1,201	46	75	61	1,396	41
39年	1,197	46	73	59	1,391	41
40年	1,618	62	86	70	1,890	56
41年	1,943	75	94	76	2,322	68
42年	2,069	80	98	80	2,486	73
43年	2,122	82	83	67	2,585	76
44年	2,308	89	91	74	2,825	83
45年	2,460	95	94	76	3,044	90
46年	2,426	93	82	67	3,018	89
47年	2,838	109	105	85	3,647	108
48年	2,602	100	123	100	3,391	100
49年	2,271	87	121	98	2,860	84
50年	1,969	76	107	87	2,405	71
51年	1,896	73	100	81	2,284	67
52年	1,991	77	77	63	2,390	70
53年	1,644	63	71	58	1,962	58
54年	1,576	61	66	54	1,860	55
55年	1,651	63	82	67	1,962	58
56年	1,540	59	80	65	1,869	55
57年	1,899	73	107	87	2,282	67
58年	2,435	94	82	67	2,818	83
59年	2,654	102	87	71	3,122	92
60年	2,401	92	63	51	2,799	83
61年	2,471	95	83	67	2,802	83
62年	2,521	97	78	63	2,840	84
63年	2,694	104	80	65	3,128	92
平成元年	2,839	109	93	76	3,259	96
2年	2,926	112	100	81	3,469	102
3年	3,234	124	94	76	3,742	110
4年	3,336	128	109	89	3,903	115
5年	3,169	122	115	93	3,743	110
6年	3,096	119	82	67	3,665	108
7年	2,928	113	100	81	3,492	103
8年	2,944	113	77	63	3,407	100
9年	3,118	120	90	73	3,626	107
10年	3,805	146	80	65	4,389	129
11年	3,904	150	65	53	4,443	131
12年	4,294	165	79	64	4,877	144
13年	5,115	197	78	63	6,163	182
14年	5,759	221	61	50	6,958	205
15年	6,127	235	79	64	7,352	217
16年	6,512	250	61	50	7,752	229
17年	6,519	251	63	51	7,839	231
18年	6,653	256	62	50	8,071	238
19年	6,525	251	43	35	7,852	232
20年	6,509	250	43	35	7,664	226
21年	6,324	243	47	38	7,524	222
22年	6,501	250	47	38	7,722	228
23年	6,788	261	45	37	8,045	237
24年	6,697	257	40	33	8,003	236
25年	6,664	256	52	42	7,906	233
26年	6,242	240	36	29	7,523	222
27年	5,621	216	41	33	6,714	198
28年	5,491	211	39	32	6,661	196
29年	5,168	199	44	36	6,145	181
30年	4,435	170	38	31	5,318	157
令和元年	4,075	157	36	29	4,861	143
2年	2,808	108	22	18	3,290	97

← 復帰 47年から全国統計に含まれる

← 死者数が過去最多の年
※昭和48年を100として指数を算出

← 統計上、最多の事故発生件数

← 統計上、二番目に少ない死者数(令和元年と同数)

← 13年振りに6,000件を下回る

← 統計上、二番目に少ない死者数(平成26年と同数)

← 統計上、最も少ない死者数
24年振りに3,000件を下回る

3 市町村別交通事故発生状況及び居住地別飲酒運転検挙状況

市町村別人口1万人当たりの死傷者数

市町村別		区 分	人 口	発生件数	死 者 数		負 傷 者 数	
					人口1万人当たり		人口1万人当たり	
市 部	那 覇 市		322,011	736	2	0.06	827	25.7
	豊 見 城 市		64,953	88			101	15.5
	糸 満 市		62,191	90	1	0.16	106	17.0
	南 城 市		44,245	44	1	0.23	53	12.0
	浦 添 市		115,340	313			362	31.4
	宜 野 湾 市		99,678	172	2	0.20	197	19.8
	沖 縄 市		142,634	308	1	0.07	362	25.4
	う る ま 市		124,457	165	2	0.16	196	15.7
	名 護 市		63,389	125			166	26.2
	宮 古 島 市		55,434	70	1	0.18	87	15.7
	石 垣 市		49,824	45	2	0.40	53	10.6
	小 計		1,144,156	2,156	12	0.10	2,510	21.9
町 部	久 米 島 町		7,772	2			4	5.1
	八 重 瀬 町		31,537	49			53	16.8
	南 風 原 町		39,905	74			84	21.0
	与 那 原 町		19,982	39			46	23.0
	西 原 町		35,451	72	1	0.28	80	22.6
	北 谷 町		28,912	102			131	45.3
	嘉 手 納 町		13,524	27	1	0.74	28	20.7
	金 武 町		11,455	20			23	20.1
	本 部 町		13,191	14	2	1.52	15	11.4
	竹 富 町		4,342	2	1	2.30	1	2.3
	与 那 国 町		1,716	1			2	11.7
	小 計		207,787	402	5	0.24	467	22.5
村 部	渡 嘉 敷 村		711					
	座 間 味 村		914					
	粟 国 村		696					
	渡 名 喜 村		356					
	南 大 東 村		1,262					
	北 大 東 村		589					
	中 城 村		21,762	34			44	20.2
	北 中 城 村		17,510	83	1	0.57	102	58.3
	読 谷 村		41,481	50	1	0.24	61	14.7
	恩 納 村		11,064	37	1	0.90	48	43.4
	宜 野 座 村		6,106	8			11	18.0
	国 頭 村		4,673	5	1	2.14	4	8.6
	大 宜 味 村		3,067	4			6	19.6
	東 村		1,764	2			3	17.0
	伊 平 屋 村		1,231					
	伊 是 名 村		1,408					
	今 帰 仁 村		9,356	6			7	7.5
	伊 江 村		4,524	3	1	2.21	3	6.6
	多 良 間 村		1,122					
	小 計		129,596	232	5	0.39	289	22.3
総 計			1,481,539	2,790	22	0.15	3,266	22.0
沖縄自動車道等			-	18		-	24	-

※人口は、令和2年1月1日の住民基本台帳による。

市町村別飲酒絡み事故発生状況

市町村別飲酒絡み事故発生状況

区分 市町村別	全事故	市町村内発生の飲酒絡み事故				率	人口	1,000人 当たり率
		死 亡	重 傷	軽 傷	計			
市	那 覇	736	4	12	16	2.17	322,011	0.05
	豊見城	89					64,436	
	糸 満	90		1	1	1.11	61,811	0.02
	南 城	44					44,245	
	浦 添	314		1	1	0.32	115,340	0.01
	宜野湾	172		3	3	1.74	99,678	0.03
	沖 縄	311		4	4	1.29	142,634	0.03
	うるま	166	1	5	6	3.61	124,457	0.05
	名 護	125		2	2	1.60	63,389	0.03
	宮古島	70	1	1	2	2.86	55,434	0.04
部	石 垣	45					49,824	
	計	2,162	1	5	29	1.62	1,144,156	0.03

居住地別飲酒絡み事故発生状況

区分 市町村別	全事故	市町村居住者の飲酒絡み事故				率	人口	1,000人 当たり率
		死 亡	重 傷	軽 傷	計			
市	那 覇	587	1	10	11	1.87	322,011	0.03
	豊見城	118	1	2	3	2.54	64,436	0.05
	糸 満	109		1	1	0.92	61,811	0.02
	南 城	85					44,245	
	浦 添	266		1	1	0.38	115,340	0.01
	宜野湾	197		2	2	1.02	99,678	0.02
	沖 縄	305	1	2	3	0.98	142,634	0.02
	うるま	222		5	6	2.70	124,457	0.05
	名 護	107		2	2	1.87	63,389	0.03
	宮古島	64	1	1	2	3.13	55,434	0.04
部	石 垣	41					49,824	
	計	2,101	2	3	26	1.48	1,144,156	0.03

町	久米島	2					7,772	
	八重瀬	49	1		1	2.04	31,537	0.03
	南風原	75		2	2	2.67	39,905	0.05
	与那原	39					19,982	
	西 原	74					35,451	
	北 谷	102		3	3	2.94	28,912	0.10
	嘉手納	27	1		1	3.70	13,524	0.07
	金 武	22					11,455	
	本 部	14					13,191	
	竹 富	2					4,342	
部	与那国	1					1,716	
	計	407	2	5	7	1.72	207,787	0.03

町	久米島	4					7,772	
	八重瀬	72	1		1	1.39	31,537	0.03
	南風原	64		1	1	1.56	39,905	0.03
	与那原	32					19,982	
	西 原	62	1	2	3	4.84	35,451	0.08
	北 谷	75		2	2	2.67	28,912	0.07
	嘉手納	39					13,524	
	金 武	26		1	1	3.85	11,455	0.09
	本 部	13					13,191	
	竹 富	1					4,342	
部	与那国	3					1,716	
	計	391	2	6	8	2.05	207,787	0.04

村	渡嘉敷						711	
	座間味						914	
	粟 国						696	
	渡名喜						356	
	南大東						1,262	
	北大東						589	
	中 城	35					21,762	
	北中城	86	1	1	2	2.33	17,510	0.11
	読 谷	50					41,481	
	恩 納	37	1		1	2.70	11,064	0.09
部	宜野座	11					6,106	
	国 頭	5					4,673	
	大宜味	4					3,067	
	東	2					1,764	
	伊平屋						1,231	
	伊是名						1,408	
	今帰仁	6					9,356	
	伊 江	3					4,524	
	多良間						1,122	
	計	239	1	1	3	1.26	129,596	0.02

村	渡嘉敷						711	
	座間味	1					914	
	粟 国						696	
	渡名喜						356	
	南大東	1					1,262	
	北大東						589	
	中 城	31	2	1	3	9.68	21,762	0.14
	北中城	40					17,510	
	読 谷	83	1	1	2	2.41	41,481	0.05
	恩 納	15					11,064	
部	宜野座	9					6,106	
	国 頭	7					4,673	
	大宜味	5					3,067	
	東	2					1,764	
	伊平屋	1					1,231	
	伊是名						1,408	
	今帰仁	13					9,356	
	伊 江	5					4,524	
	多良間	1					1,122	
	計	214	3	2	5	2.34	129,596	0.04

県 合 計	2,808	2	8	35	45	1.60	1,481,539	0.03
-------	-------	---	---	----	----	------	-----------	------

県外居住者等	102			1	1	0.98	-	
合 計	2,808	2	8	35	45	1.60	1,481,539	0.03

※ 市町村域内で発生した飲酒絡み事故の内容別発生件数

(率)及び人口 1,000人当たりの発生率である。

※ 人口は、令和2年1月1日の住民基本台帳による。

※ 交通事故当事者の居住地別による飲酒絡み事故の内容別発生件数

(率)及び人口 1,000人当たりの発生率である。

※ 人口は、令和2年1月1日の住民基本台帳による。

居住地別飲酒運転検挙者数

市町村別	種別	酒酔い運転	酒気帯び運転		飲酒運転合計	市町村別人口	人口千人当 検挙件数
			0.25未満	0.25以上			
市部	那覇市	3	48	151	202	322,011	0.63
	豊見城市		13	39	52	64,953	0.80
	糸満市		18	33	51	62,191	0.82
	南城市		7	27	34	44,245	0.77
	浦添市	3	19	71	93	115,340	0.81
	宜野湾市		18	63	81	99,678	0.81
	沖縄市	1	23	71	95	142,634	0.67
	うるま市	3	41	90	134	124,457	1.08
	名護市		19	51	70	63,389	1.10
	宮古島市		7	43	50	55,434	0.90
	石垣市		11	29	40	49,824	0.80
	計	10	224	668	902	1,144,156	0.79
町部	久米島町			1	1	7,772	0.13
	八重瀬町		9	16	25	31,537	0.79
	南風原町		6	24	30	39,905	0.75
	与那原町		3	14	17	19,982	0.85
	西原町		8	22	30	35,451	0.85
	北谷町		6	14	20	28,912	0.69
	嘉手納町		6	7	13	13,524	0.96
	金武町		7	8	15	11,455	1.31
	本部町		2	11	13	13,191	0.99
	竹富町	1		1	2	4,342	0.46
	与那国町					1,716	
	計	1	47	118	166	207,787	0.80
村部	渡嘉敷村					711	
	座間味村					914	
	粟国村					696	
	渡名喜村					356	
	南大東村			1	1	1,262	0.79
	北大東村					589	
	中城村		10	13	23	21,762	1.06
	北中城村			9	9	17,510	0.51
	読谷村		9	37	46	41,481	1.11
	恩納村		1	8	9	11,064	0.81
	宜野座村		3	5	8	6,106	1.31
	国頭村		3	4	7	4,673	1.50
	大宜味村		1	2	3	3,067	0.98
	東村			3	3	1,764	1.70
	伊平屋村		1	2	3	1,231	2.44
	伊是名村		1	1	2	1,408	1.42
	今帰仁村		3	9	12	9,356	1.28
	伊江村			2	2	4,524	0.44
	多良間村					1,122	
	計		32	96	128	129,596	0.99
県内合計		11	303	882	1,196	1,481,539	0.81
その他		5	37	191	233	—	—
合計		16	340	1,073	1,429	1,481,539	0.96

※ 人口は、令和2年1月1日の住民基本台帳による。

4 飲酒絡み事故発生状況

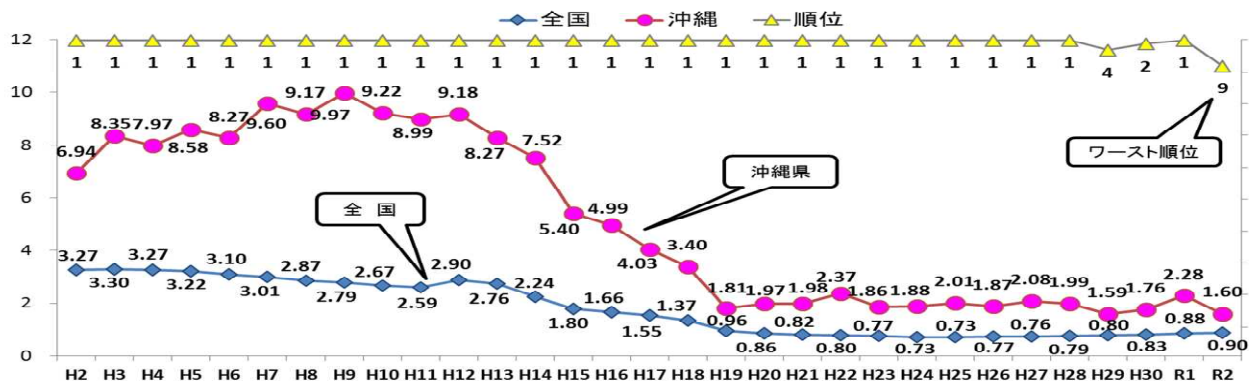
飲酒絡み事故件数

年 別	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減数	増減率	指数
	飲酒絡み事故件数	126	126	134	117	117	109	82	78	93	45	-48	-51.6
死亡事故	5	7	10	9	11	13	5	2	1	2	1	100.0	40.0
死者数	5	7	10	9	11	13	6	2	1	2	1	100.0	40.0
負傷者数	172	160	168	157	156	140	105	115	128	55	-73	-57.0	32.0
うち重傷者	25	25	20	8	30	18	7	14	17	8	-9	-52.9	32.0
うち軽傷者	147	135	148	149	126	122	98	101	111	47	-64	-57.7	32.0

※ 飲酒絡み事故とは、自転車以上の車両を運転している運転者(第1当事者)が、飲酒運転により起こした交通事故件数。

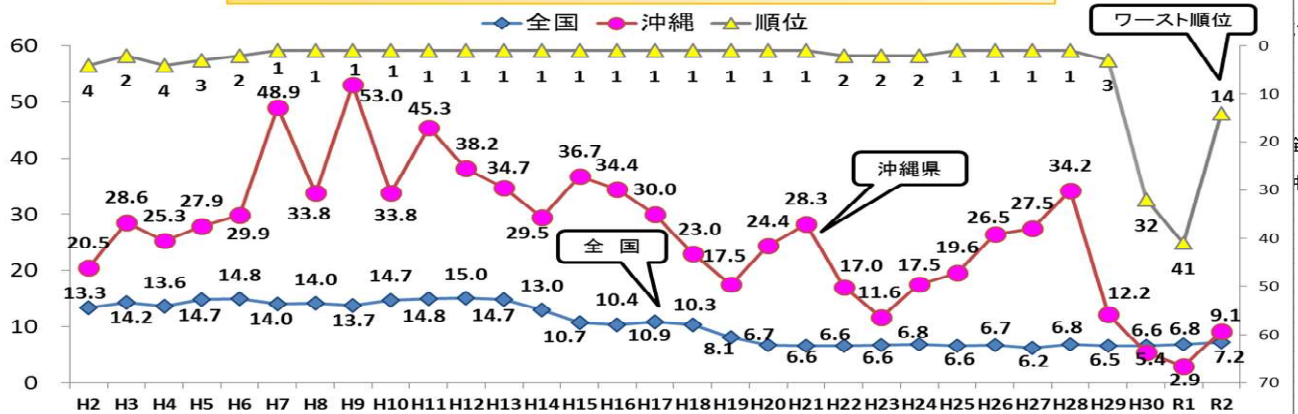
※ 死者数、負傷者数は、交通事故の運転者(第1当事者)の飲酒運転による交通事故で死傷した人数。

交通事故に占める飲酒絡み事故の構成率(%)の推移



令和2年中の飲酒絡み事故は大幅に減少し、交通事故に占める構成率は1.60%で、2年振りにワーストを脱却しましたが、全国平均(0.90%)の構成率と比較すると約1.8倍高くなっています。

死亡事故に占める飲酒絡み事故の構成率(%)の推移

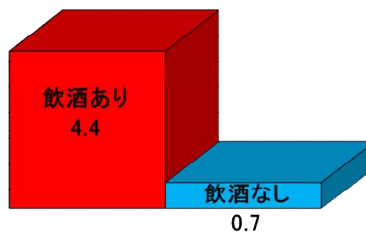


令和2年中の死亡事故に占める飲酒絡み事故の構成率は9.1%で、4年連続でワーストを回避しましたが、全国平均(7.2%)より1.9ポイント高い構成率となっています。

飲酒有無別の死亡事故率

	発生件数	死亡事故	死亡事故率
飲酒なし	2,723	20	0.7
飲酒あり	45	2	4.4

※ 飲酒有無別の交通事故件数には、ひき逃げ、飲酒調査不能等の40件は含まれない。



飲酒絡み事故の死亡事故率は4.4%で、飲酒なし事故(0.7%)に比べ高くなっています。

5 二輪車事故発生状況

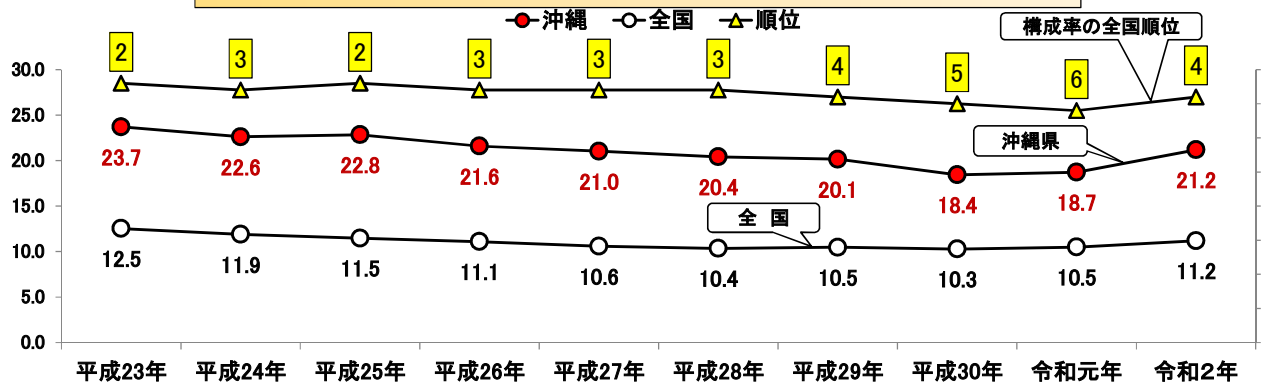
二輪車関連の事故件数

年 別	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減数	増減率	指数
二輪車関連事故発生件数	1,972	1,881	1,891	1,689	1,472	1,419	1,278	1,030	945	730	-215	-22.8	37
死者数	16	12	18	12	13	15	24	7	14	5	-9	-64.3	31
負傷者数	1,902	1,807	1,800	1,621	1,408	1,353	1,223	981	903	697	-206	-22.8	37
うち重傷者	346	333	304	283	292	272	268	211	173	157	-16	-9.2	45
うち軽傷者	1,556	1,474	1,496	1,338	1,116	1,081	955	770	730	540	-190	-26.0	35

※ 関連事故発生件数は、二輪車が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

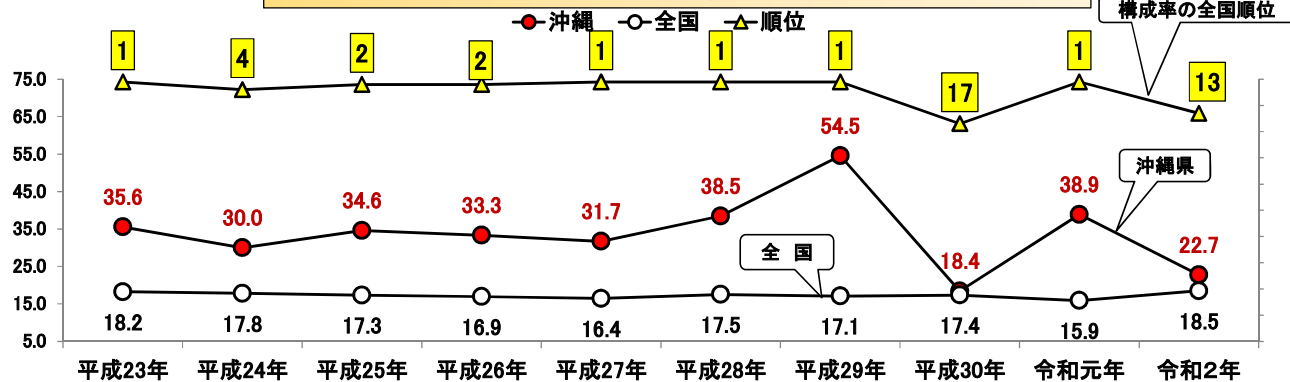
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により二輪車乗車中の者(運転者、同乗者)が死傷した人数。

死傷者に占める二輪車乗車中死傷者の構成率(%)の推移(全国比較)



令和2年中の交通事故死傷者に占める二輪車乗車中の死傷者の構成率は21.2%で、全国平均(11.2%)の約1.9倍となっており、全国ワースト4となっています。

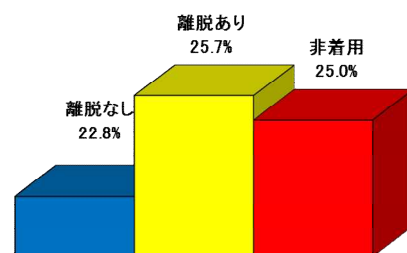
死者に占める二輪車乗車中死者の構成率(%)の推移(全国比較)



令和2年中の交通事故死者に占める二輪車乗車中の死者の構成率は22.7%で、全国平均(18.5%)より約1.2倍高く、全国で13番目に高くなっています。

ヘルメット着用状況別の死亡重傷率

	二輪車乗車中 死傷者数	死亡重傷者数	死亡重傷率
離脱なし	628	143	22.8
離脱あり	70	18	25.7
非着用	4	1	25.0



非着用の死亡重傷率(25.0%)と離脱ありの死亡重傷率(25.7%)は、離脱なし(22.8%)と比べ死亡重傷率が高くなっており、ヘルメットの非着用や不適切な着用が被害を大きくしています。

6 レンタカー事故発生状況

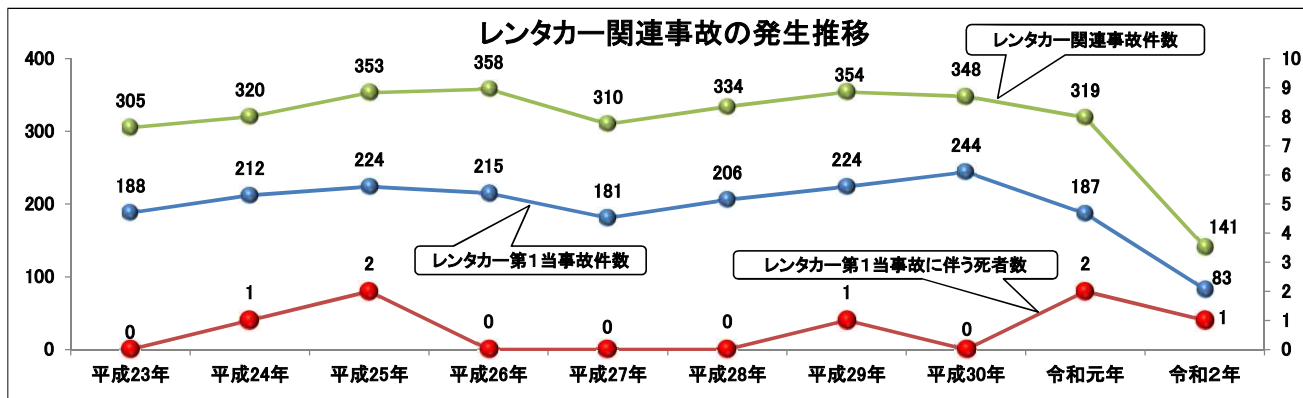
レンタカー(1・2当)関連事故件数

年 別	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減数	増減率	指数
レンタカー関連事故発生件数	305	320	353	358	310	334	354	348	319	141	-178	-55.8	46
レンタカー第1当事故	188	212	224	215	181	206	224	244	187	83	-104	-55.6	44
死者数		1	2				1		2	1	-1	-50.0	
負傷者数	282	301	335	309	241	290	280	339	273	116	-157	-57.5	41
うち重傷者	18	24	17	22	18	21	31	29	30	16	-14	-46.7	89
うち軽傷者	264	277	318	287	223	269	249	310	243	100	-143	-58.8	38

※ 関連事故発生件数は、レンタカーが第1当事者、第2当事者いずれの場合も関係した事故を含む。

※ レンタカー第1当事故は、レンタカーが第1当事者となった事故件数。

※ 死者数、負傷者数は、レンタカーが第1当事者の交通事故で死傷した人数。



令和2年中のレンタカーが関係した事故は141件で、前年に比べ178件(55.8%)減少しました。

また、レンタカーが原因となった事故(第1当事故)は83件で、前年と比べ104件(55.6%)減少しましたが、事故に伴う死者は1人でした。

レンタカー(1・2当)関連事故の発生件数の多い市町村

	市町村	全事故	レンタカー 関連事故	構成率
1	那 覇 市	736	41	5.6
2	名 護 市	125	13	10.4
3	宮 古 島 市	70	13	18.6
4	石 垣 市	45	9	20.0
5	浦 添 市	314	7	2.2
	全 体	2,808	141	5.0

レンタカー(1・2当)関連事故の構成率が多い市町村

	市町村	全事故	レンタカー 関連事故	構成率
1	竹 富 町	2	1	50.0
2	国 頭 村	5	2	40.0
3	大 宜 味 村	4	1	25.0
4	本 部 町	14	3	21.4
5	石 垣 市	45	9	20.0
6	宮 古 島 市	70	13	18.6
7	今 帰 仁 村	6	1	16.7
8	恩 納 村	37	5	13.5
9	嘉 手 納 町	27	3	11.1
10	名 護 市	125	13	10.4
	全 体	2,808	141	5.0

レンタカーが関係した事故は、那覇市が41件で最も多く、次いで名護市と宮古島市13件となっています。

また、人身事故に占めるレンタカーが関係した事故の構成率が最も高いのは、竹富町50.0%で、次いで国頭村40.0%、大宜味村25.0%の順となっており、本島北部地域や離島においてレンタカー関連事故の構成率が高くなっています。

7 自転車事故発生状況

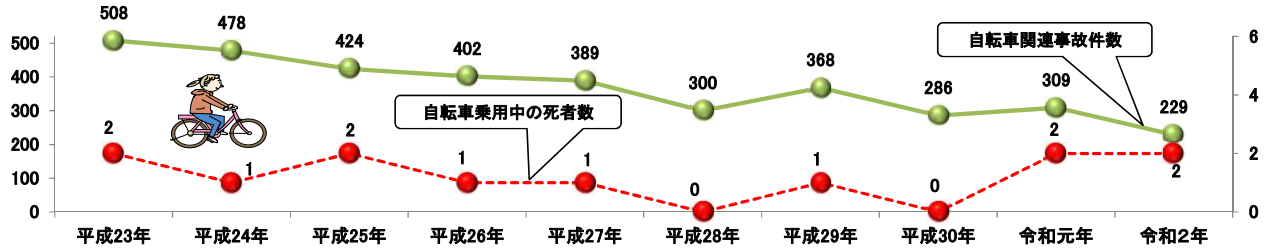
自転車関連の事故件数

年 別	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減数	増減率	指数
自転車関連事故発生件数	508	478	424	402	389	300	368	286	309	229	-80	-25.9	45
死者数	2	1	2	1	1		1		2	2			100
負傷者数	514	474	420	398	384	296	361	281	301	220	-81	-26.9	43
うち重傷者	62	51	56	45	55	34	43	53	51	31	-20	-39.2	50
うち軽傷者	452	423	364	353	329	262	318	228	250	189	-61	-24.4	42

※ 関連事故発生件数は、自転車が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

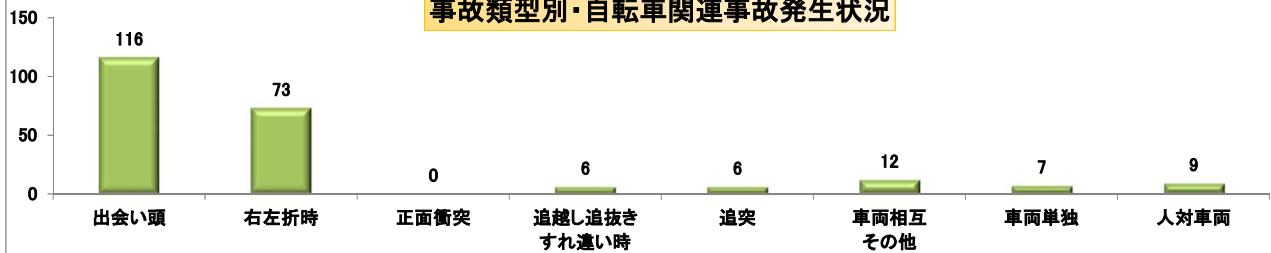
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により自転車に乗車中の者が死傷した人数

自転車関連事故の発生推移



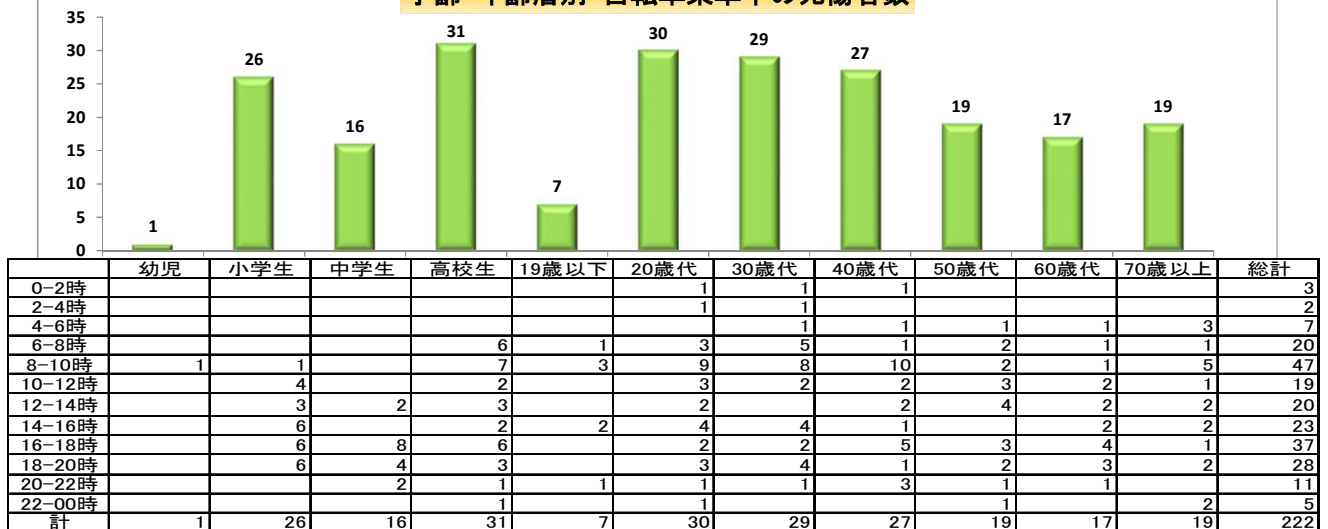
令和2年中の自転車が関係した事故は229件で、前年に比べ80件減少し、自転車乗車中の死者は2人でした。

事故類型別・自転車関連事故発生状況



令和2年中の自転車が関係した事故は、出会い頭事故が最も多く、次いで右左折時事故となっており、両方で自転車関連事故の8割以上(82.5%)を占めています。

学齢・年齢層別・自転車乗車中の死傷者数



学齢と年齢層別に死傷者数をみると、高校生が最も多く、次いで20歳代が多くなっています。

時間帯別は、全体で通勤、通学時間帯に死傷者数が多くなる傾向がありますが、小中学生は放課後、又は帰宅中の時間帯(14時～20時)が最も多くなっています。

8 歩行者の事故発生状況

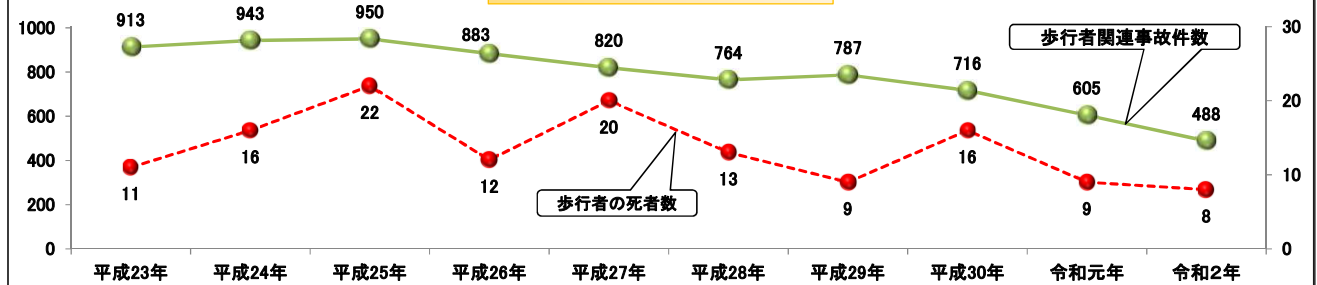
歩行者関連の事故件数

年 別	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減数	増減率	指数
歩行者関連事故発生件数	913	943	950	883	820	764	787	716	605	488	-117	-19.3	53
死者数	11	16	22	12	20	13	9	16	9	8	-1	-11.1	73
負傷者数	920	948	951	896	818	774	788	714	609	490	-119	-19.5	53
うち重傷者	212	206	222	183	152	187	198	180	155	120	-35	-22.6	57
うち軽傷者	708	742	729	713	666	587	590	534	454	370	-84	-18.5	52

※ 関連事故発生件数は、歩行者が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

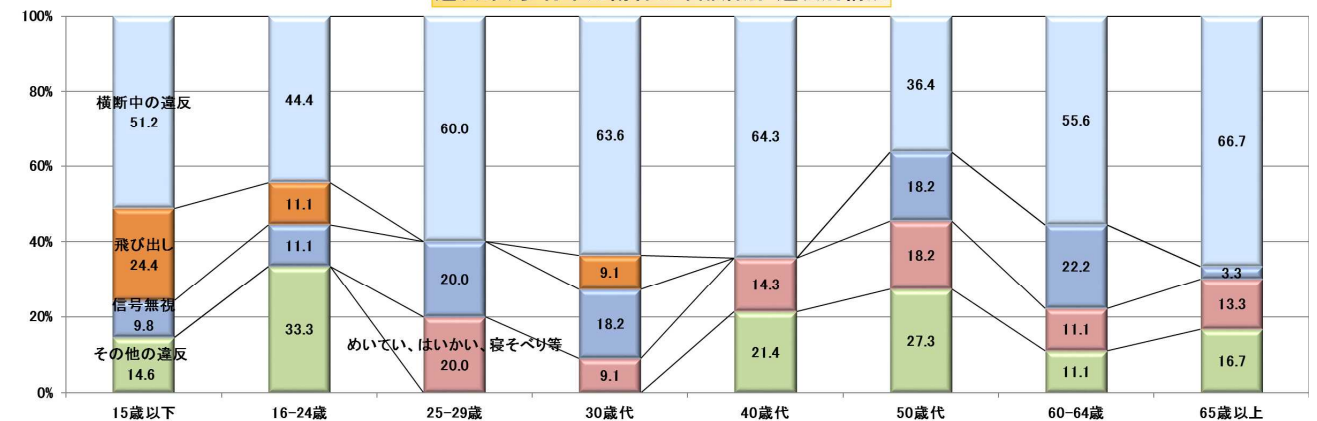
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により死傷した歩行者の人数。

歩行者関連事故の発生推移



令和2年中の歩行者が関係した事故は488件で、前年に比べ117件(19.3%)減少し、死者は8人で、前年に比べ1人(11.1%)減少しました。

違反あり歩行中死傷者の年齢層別・違反別構成



法令違反		15歳以下	16-24歳	25-29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60-64歳	65歳以上	総計
横断中の違反	横断歩道外横断	4	1	2	5	5	3	2	15	37
	斜め横断			1	1	1			2	5
	走行車両の直前直後の横断	12	1			3		3	1	20
	駐停車車両の直前直後の横断	5			1		1			7
	横断禁止場所の横断		2						2	4
計		21	4	3	7	9	4	5	20	73
飛び出し		10	1		1					12
信号無視		4	1	1	2		2	2	1	13
めいてい、はいかい、寝そべり等				1	1	2	2	1	4	11
その他の違反		6	3			3	3	1	5	21
違反あり合計		41	9	5	11	14	11	9	30	130
調査不能										
違反なし		56	19	14	24	42	39	38	136	368
総計		97	28	19	35	56	50	47	166	498

構成率	全死者に占める歩行中の死者	100.0						50.0	66.7	36.4
	全負傷者に占める歩行中の負傷者	37.9	5.0	6.7	5.5	9.7	12.5	26.0	39.5	14.9

違反が認められた歩行者を年齢層別で見ると、15歳以下が41人で最も多く、次いで65歳以上の30人となっています。また、違反別では横断歩道外横断が37人で最も多くなっています。

9 子供(中学生以下)の事故発生状況

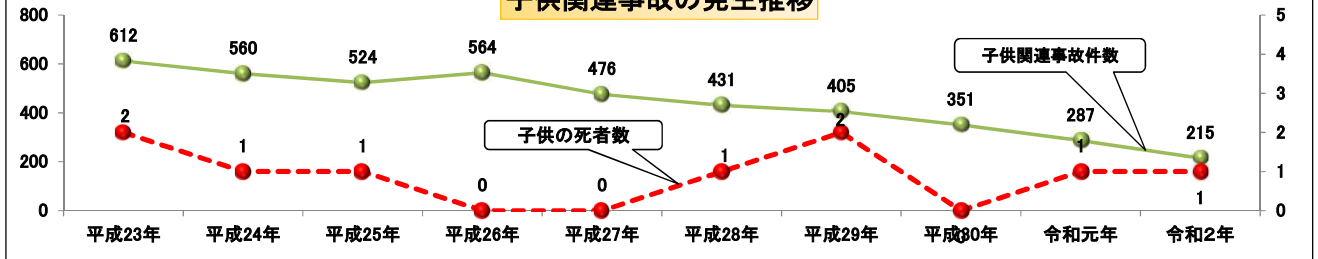
子供関連の事故件数

年 別	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減数	増減率	指数
子供関連事故発生件数	612	560	524	564	476	431	405	351	287	215	-72	-25.1	35
死者数	2	1	1			1	2		1	1			50
負傷者数	669	630	583	667	533	499	461	411	334	239	-95	-28.4	36
うち重傷者	60	50	50	42	46	38	49	35	27	14	-13	-48.1	23
うち軽傷者	609	580	533	625	487	461	412	376	307	225	-82	-26.7	37

※ 関連事故発生件数は、子供が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

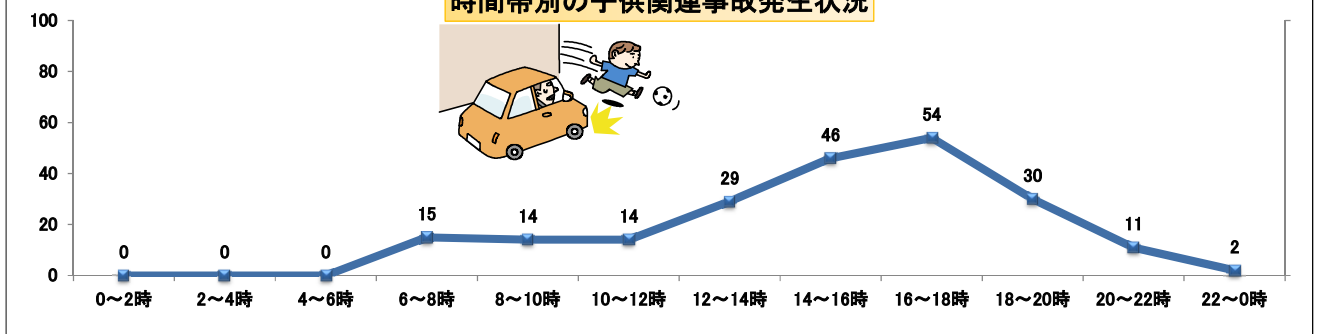
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により死傷した子供の人数。

子供関連事故の発生推移

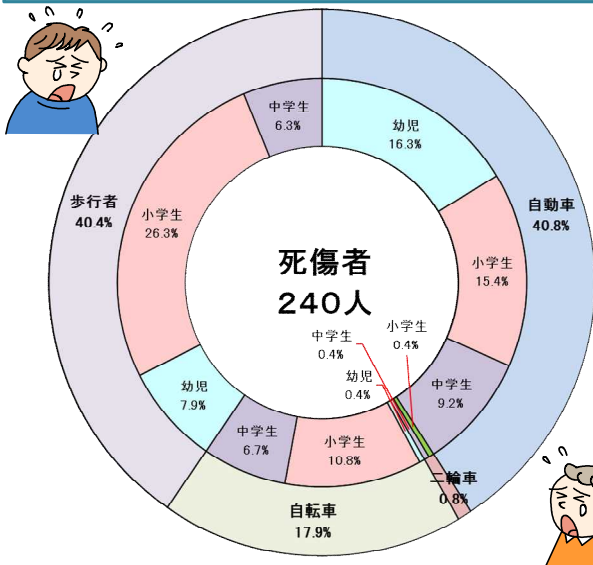


令和2年中の子供が関係した事故は215件で、前年に比べ72件減少し、子供の死者は1人でした。

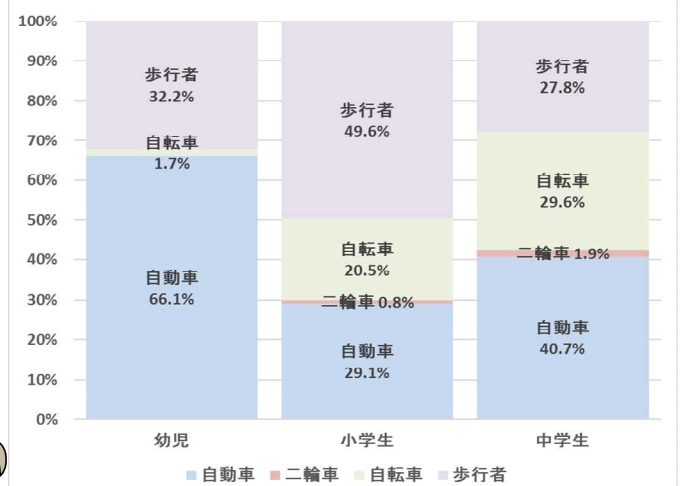
時間帯別の子供関連事故発生状況



時間帯別の子供が関係した事故は、下校後の16時～18時の時間帯に最も多く発生しています。



学齢別死傷者の構成



幼児は、自動車乗車中が最も多く、小学生は、歩行中が最も多くなっています。
中学生は、他の学齢と比べ自転車の割合が高くなっている

10 高校生の事故発生状況

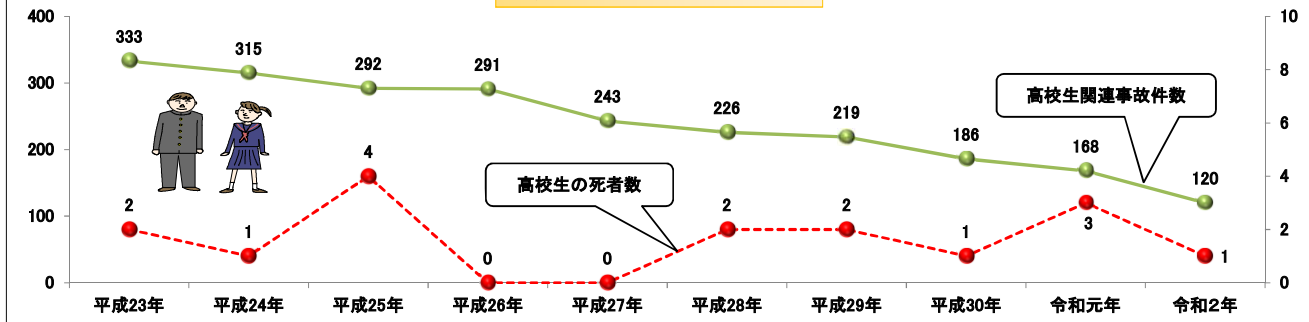
高校生関連の事故件数

年 別	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減数	増減率	指数
高校生関連事故発生件数	333	315	292	291	243	226	219	186	168	120	-48	-28.6	36
死者数	2	1	4			2	2	1	3	1	-2	-66.7	50
負傷者数	315	298	270	265	236	200	191	195	147	108	-39	-26.5	34
うち重傷者	55	41	35	34	39	27	18	21	14	14			25
うち軽傷者	260	257	235	231	197	173	173	174	133	94	-39	-29.3	36

※ 関連事故発生件数は、高校生が第1当事者、第2当事者以下のいずれの場合も関係した事故を含む。

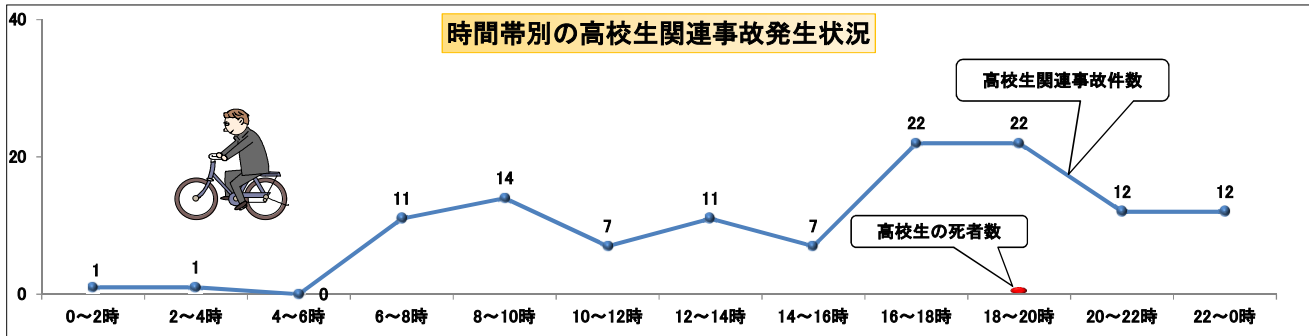
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により死傷した高校生の人数。

高校生関連事故の発生推移



令和2年中の高校生が関係した事故は120件で、前年に比べ48件(28.6%)減少しましたが、高校生の死者は1人でした。

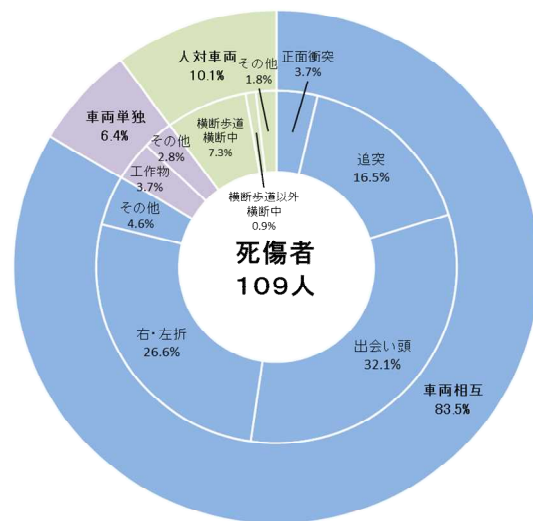
時間帯別の高校生関連事故発生状況



時間帯別の高校生が関係した事故は、薄暮期の16時～20時までの時間帯に多く発生しています。

高校生の事故類型別・状態別死傷者数

事故類型	自動車	二輪車	自転車	歩行者	総計
正面衝突	4				4
追突	15	3			18
出会い頭	6	10	19		35
追越追抜時					
すれ違い時					
左折時		1	6		7
右折時	3	14	5		22
車両相互 その他	1	4			5
計	29	32	30		91
工作物		3	1		4
駐車車両(運転者不在)		1			1
転倒		2			2
その他					
計		6	1		7
横断歩道横断中				8	8
横断歩道以外横断中				1	1
人対車両 その他				2	2
計				11	11
総 計	29	38	31	11	109



事故類型別・状態別死傷者では、自転車乗車中の出会い頭事故が最も多く、次いで自動車乗車中の追突となっています。また、高校生の死傷者は、二輪車乗車中(38人、34.9%)が最も多くなっています。

11 若年者(16歳～24歳)の事故発生状況

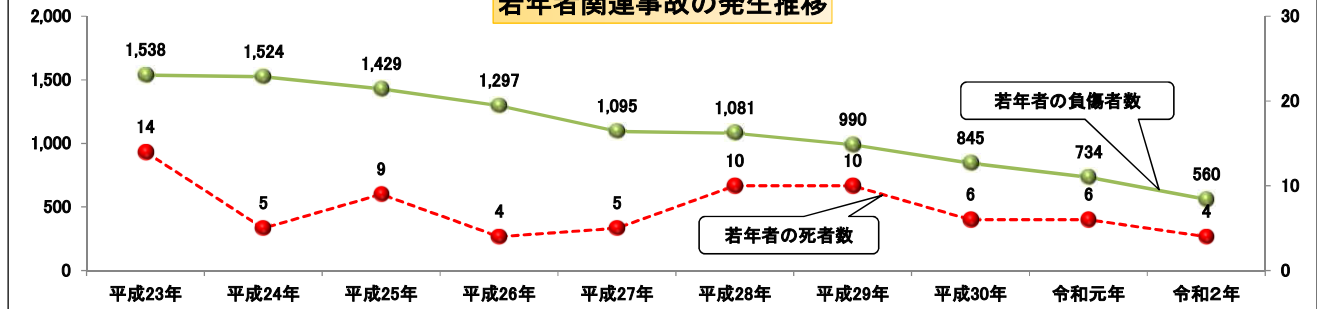
若年者関連の事故件数

年 別	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減数	増減率	指数
若年者関連事故発生件数	2,402	2,388	2,333	2,131	1,847	1,804	1,630	1,389	1,285	883	-402	-31.3	37
死者数	14	5	9	4	5	10	10	6	6	4	-2	-33.3	29
負傷者数	1,538	1,524	1,429	1,297	1,095	1,081	990	845	734	560	-174	-23.7	36
うち重傷者	150	165	142	108	116	118	98	90	74	73	-1	-1.4	49
うち軽傷者	1,388	1,359	1,287	1,189	979	963	892	755	660	487	-173	-26.2	35

※ 関連事故発生件数は、若年者が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

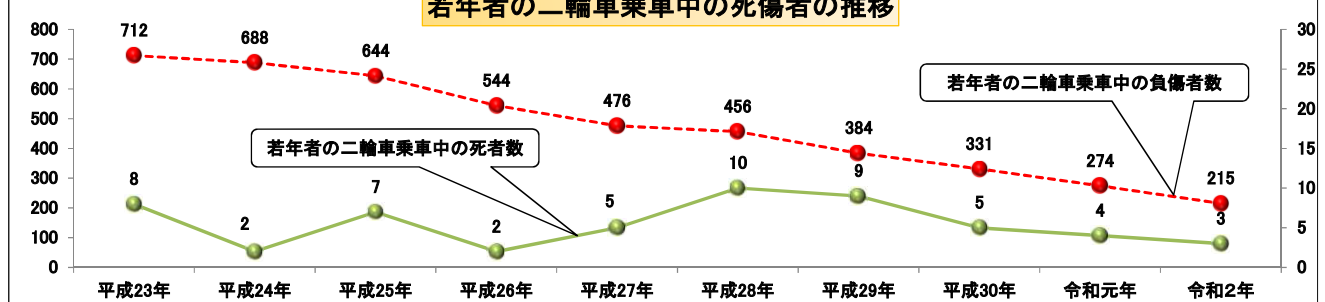
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により死傷した若年者の人数。

若年者関連事故の発生推移



令和2年中の若年者が関連した事故は883件発生し、前年に比べ402件(31.3%)減少しましたが、若年者の死者は4人でした。

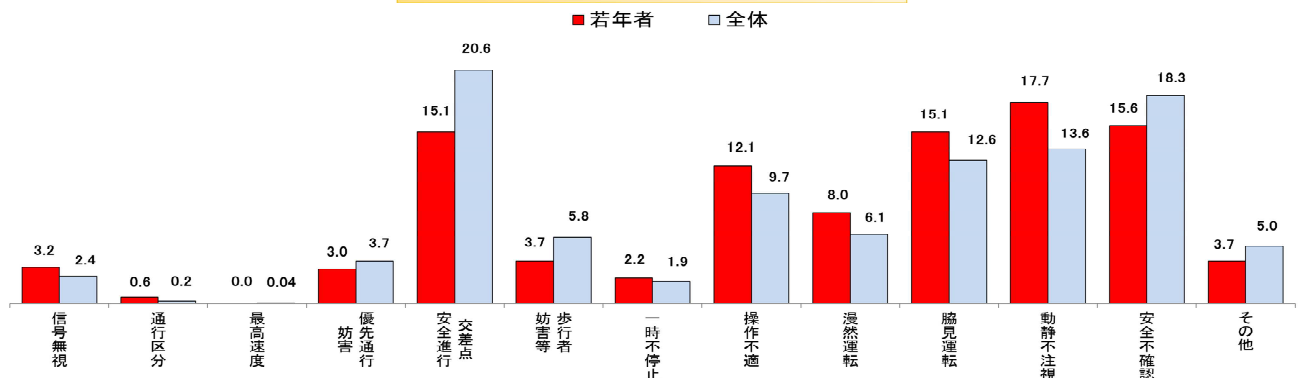
若年者の二輪車乗車中の死傷者の推移



令和2年中の若年者の二輪車乗車中の負傷者は215人で、前年と比べ59人減少しました。

また、二輪車乗車中の死者は3人で、前年に比べ1人減少しましたが、若年者の死者(4人)の7割以上を二輪車乗車中が占めており、過去の推移をみても、二輪車乗車中に死者の割合が高くなっています。

若年運転者(第1当事者)の法令違反別構成率



※ 若年運転者(第1当事者)は、若年者が原付以上(自転車を含まない)の車両を運転して第1当事者になったもの。

令和2年中の若年運転者(第1当事者)の法令違反は、全体(全年齢)と比べ操作不適、漫然運転、脇見運転、動静不注視の違反による事故の比率が高くなっています。

12 高齢者(65歳以上)の事故発生状況

高齢者関連の事故件数

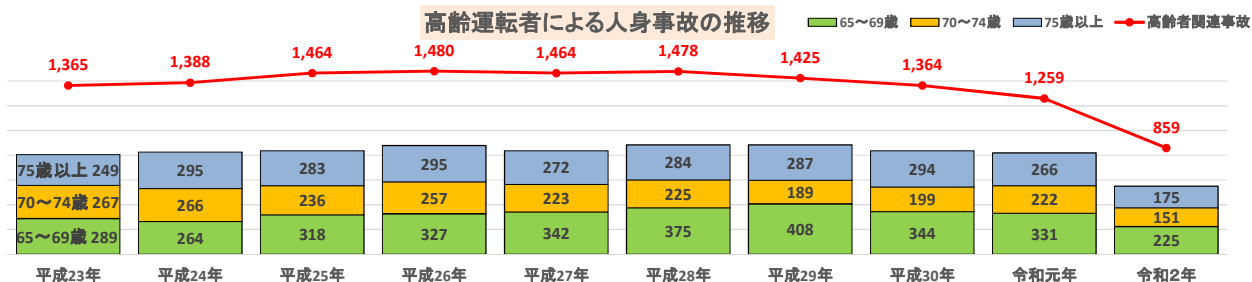
年 別	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減数	増減率	指数
高齢者関連事故発生件数	1,365	1,388	1,464	1,480	1,464	1,478	1,425	1,364	1,259	859	-400	-31.8	63
死者数	11	11	12	9	15	13	11	20	12	9	-3	-25.0	82
負傷者数	751	751	828	804	764	734	728	679	593	405	-188	-31.7	54
うち重傷者	168	145	159	162	134	157	166	164	135	104	-31	-23.0	62
うち軽傷者	583	606	669	642	630	577	562	515	458	301	-157	-34.3	52
高齢運転者事故	805	825	837	879	837	884	884	837	819	551	-268	-32.7	68

※ 関連事故発生件数は、高齢者(65歳以上)が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

※ 死者数、負傷者数は、交通事故により死傷した高齢者の人数。

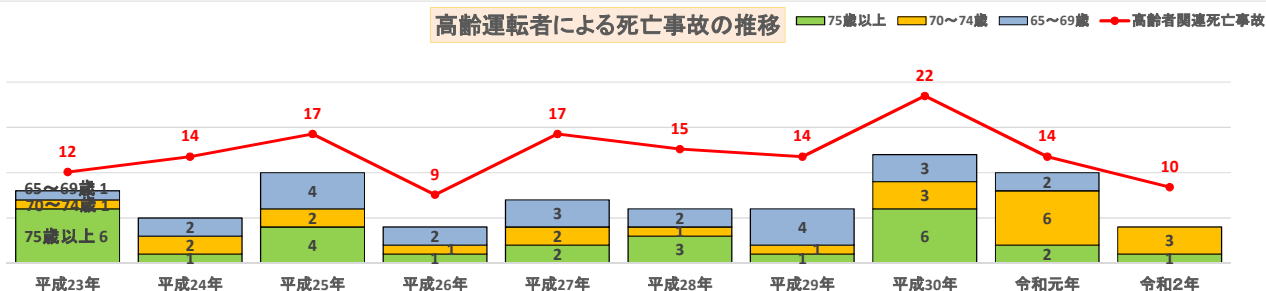
※ 高齢運転者事故は、高齢者(65歳以上)が原付以上(自転車含まない)の車両を運転して第1当事者となった事故件数。

高齢運転者による人身事故の推移



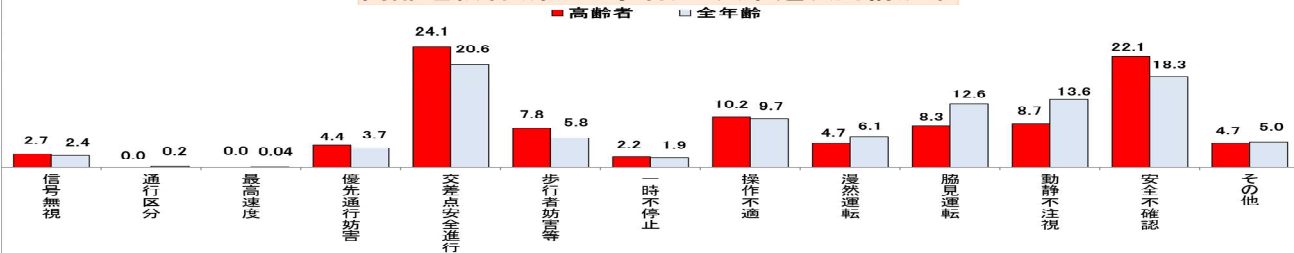
令和2年中の高齢者関連事故は、859件で前年に比べ400件(31.8%)減少しました。

高齢運転者による死亡事故の推移



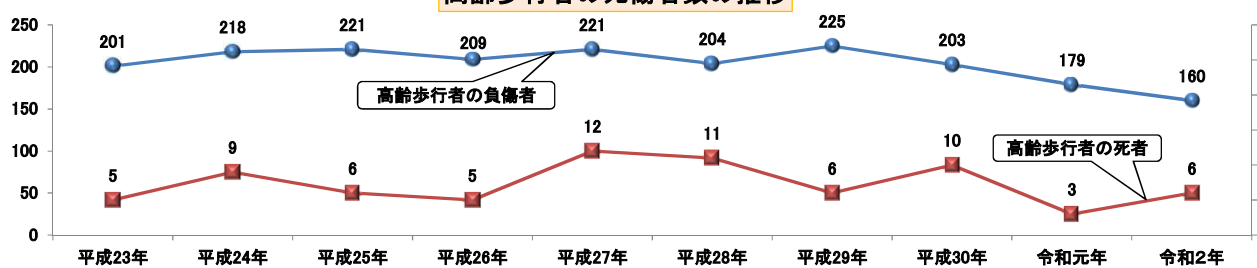
令和2年中の高齢者関連の死亡事故は10件で、うち高齢者運転者事故(4件)は40.0%を占めています。

高齢運転者(第1当事者)の法令違反別構成率



高齢運転者は、全年齢と比べ、特に交差点安全進行義務違反、歩行者妨害等、操作不適、安全不確認等の割合が高くなっています。

高齢歩行者の死傷者数の推移



令和2年中の高齢歩行者の負傷者は160人で3年連続減少し、死者は6人で前年に比べ3人の増加となりました。

13 外国人関連事故発生状況

外国人事故関連事故件数

年 別	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減数	増減率	指数
外国人関連事故発生件数	105	102	129	138	128	173	158	165	163	76	-87	-53.4	72
外国人運転者事故件数	58	56	68	72	71	88	98	106	101	45	-56	-55.4	78
死者数									1	1			
負傷者数	71	71	98	104	81	118	121	159	143	61	-82	-57.3	86
うち重傷者	11	7	7	8	7	8	15	16	18	10	-8	-44.4	91
うち軽傷者	60	64	91	96	74	110	106	143	125	51	-74	-59.2	85
外国人レンタカー事故件数	14	14	24	31	41	50	68	65	62	14	-48	-77.4	100

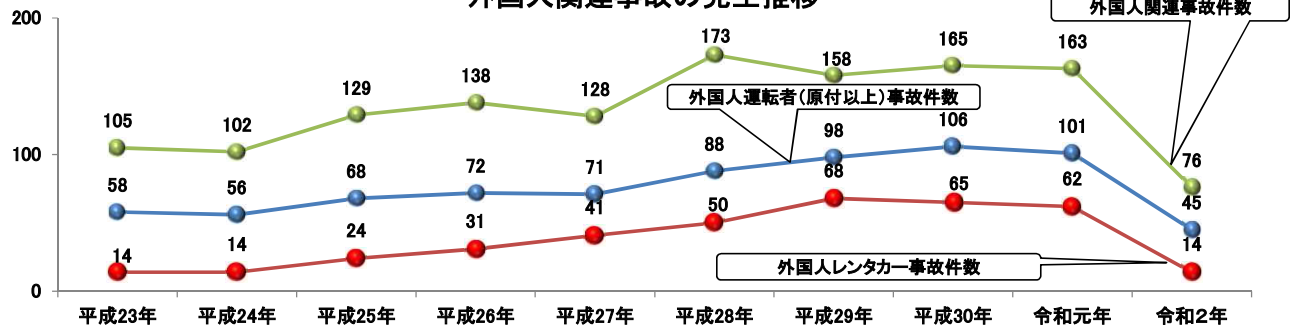
※ 関連事故件数は、外国人(米軍構成員除く)が第1当、第2当以下いずれの当事者となった場合を含む。

※ 外国人運転者事故件数は、外国人(米軍構成員除く)が原付以上(自転車含まない)の車両を運転して第1当事者となった人身事故件数。

※ 死者数、負傷者数は、外国人運転者事故に伴い死傷した人数。

※ 外国人レンタカー事故件数は、外国人(米軍構成員を除く)がレンタカーを運転して第1当となった人身事故件数。

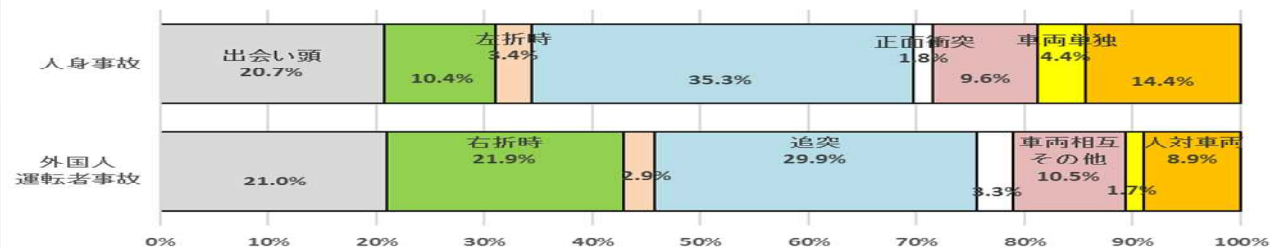
外国人関連事故の発生推移



令和2年中の外国人が関連した事故は76件で、前年に比べ87件(53.4%)減少しました。

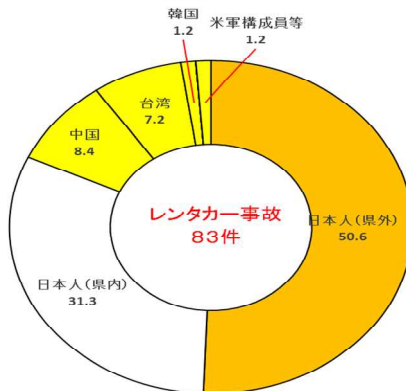
また、外国人運転者事故は45件で、前年と比べ56件(55.4%)減少、レンタカーを運転した外国人が原因となった事故は14件で前年と比べ48件(77.4%)減少しました。

事故類型別・外国人運転者(原付以上)事故の構成(H23～R2)



外国人運転者事故は、追突事故の構成が29.9%で最も高く、次いで右折時が21.9%、出会い頭が21.0%の順などとなっています。

国籍・地域別レンタカー(第1当)事故の構成(令和2年中)



	日本人(県外)	日本人(県内)	中国	台湾	韓国	アジアその他	アメリカ	カナダ	ブラジル	ヨーロッパ	米軍構成員等	合計
令和元年	66	56	7	30	14	4	2		1	4	3	187
令和2年	42	26	7	6	1						1	83
増減数	-24	-30		-24	-13	-4	-2		-1	-4	-2	-104
増減率	-36.4	-53.6		-80.0	-92.9	-100.0	-100.0		-100.0	-100.0	-66.7	-55.6

レンタカー事故に占める外国人運転手(米軍構成員等を除く)は、16.9%で前年(33.2%)と比べ大幅に減少しています。

国籍・地域別にみると中国(8.4%)と台湾(7.2%)が多くなっています。

14 路上横臥事故発生状況

路上横臥事故関連事故件数

年 別	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	増減数	増減率	指数
路上横臥事故	-	26	17	18	22	17	15	16	16	12	-4	-25.0	46
死亡事故	-	2	2	1	4	1	3	3	3	1	-2	-66.7	50
重傷事故	-	10	6	5	9	10	6	3	5	7	2	40.0	70
軽傷事故	-	14	9	12	9	6	6	10	8	4	-4	-50.0	29

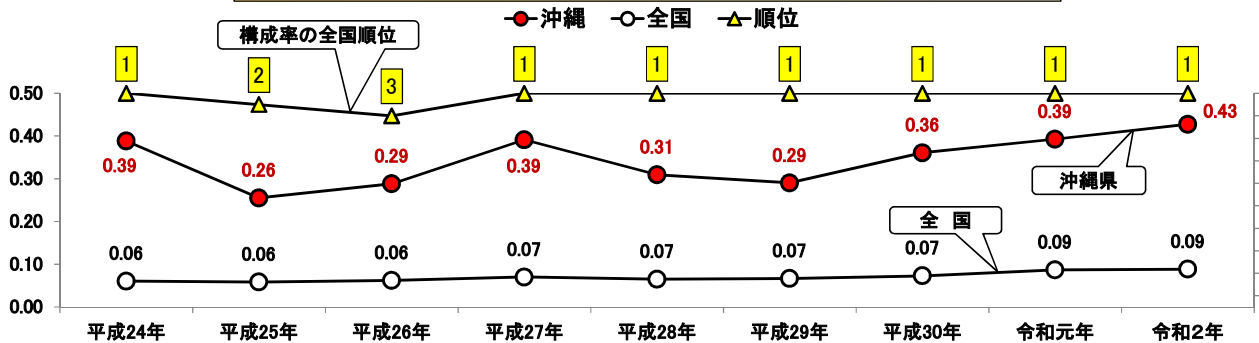
※ 路上横臥事故は、道路上に泥酔、居眠り等で横たわっていた時(座り込んでいる場合も含む。)に発生した事故件数。

※ 死亡事故、重傷事故、軽傷事故は路上横臥事故の件数。

※ 路上横臥事故の統計は、平成24年から集計しているため、平成23年以前の統計はない。

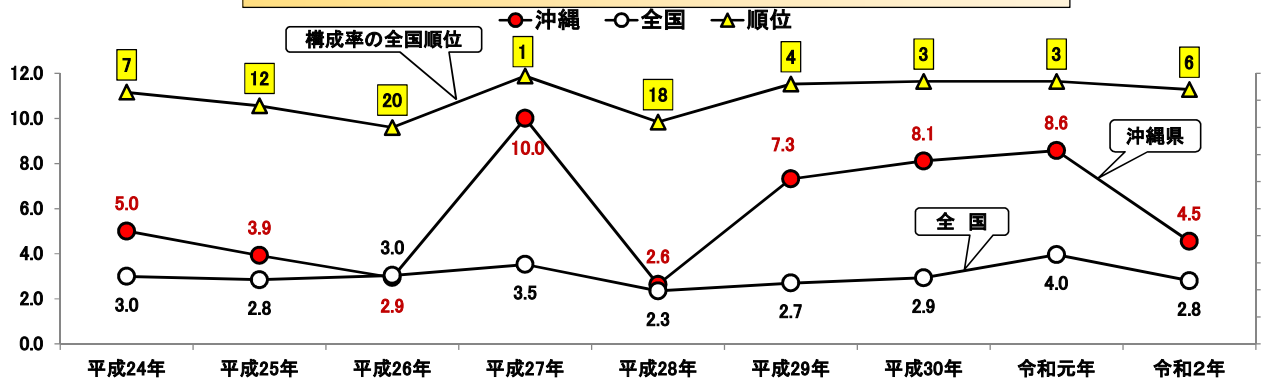
※ 指数は、平成24年を100とした場合の令和2年の値をいう。

人身事故に占める路上横臥事故の構成率(%)の推移(全国比較)



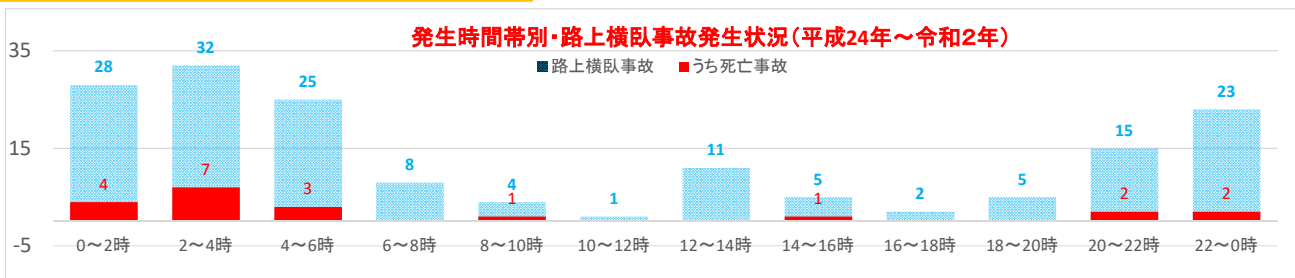
令和2年中の人身事故に占める路上横臥事故の構成率は0.43%で、全国平均(0.09%)の約4.8倍となっており、全国ワースト1となっています。

死亡事故に占める路上横臥事故の構成率(%)の推移(全国比較)



令和2年中の死亡事故に占める路上横臥事故の構成率は4.5%で、全国平均(2.8%)より約1.6倍となっており、全国ワースト6となっています。

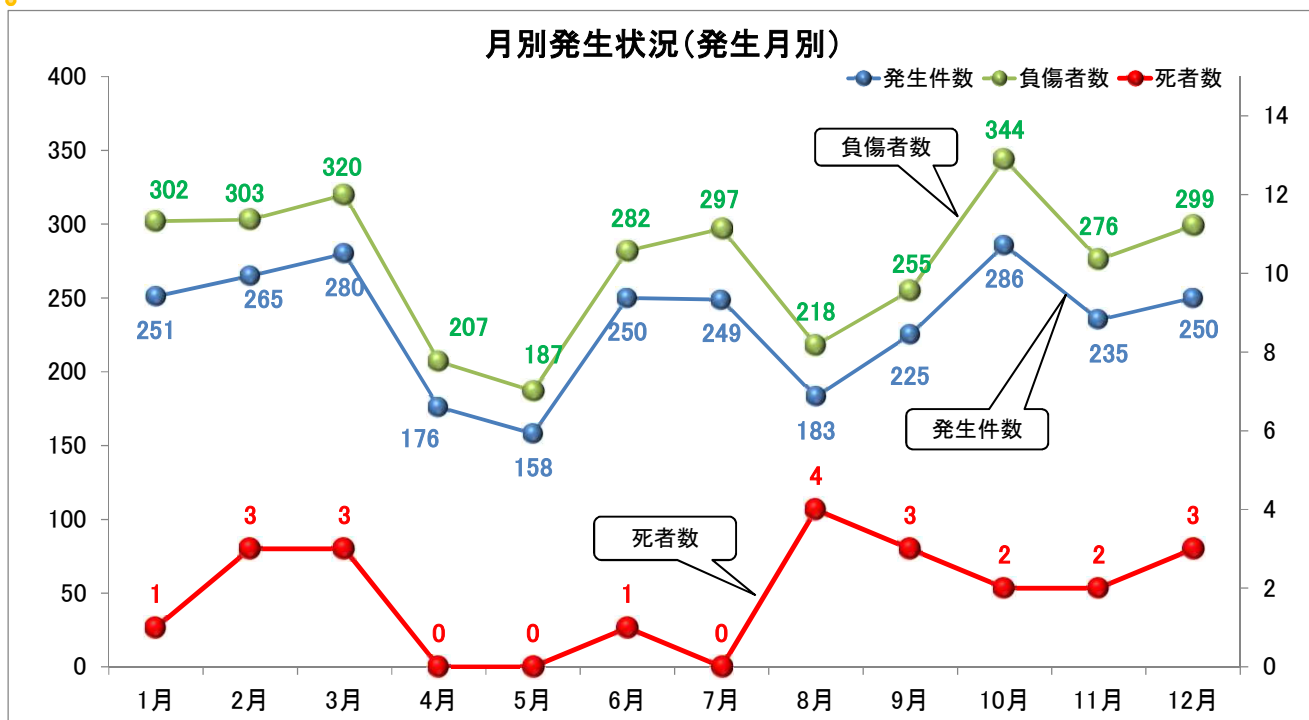
発生時間帯別・路上横臥事故発生状況



路上横臥事故は、深夜22時～6時の間に多く、死亡事故は2時～4時に最も多く発生しています。

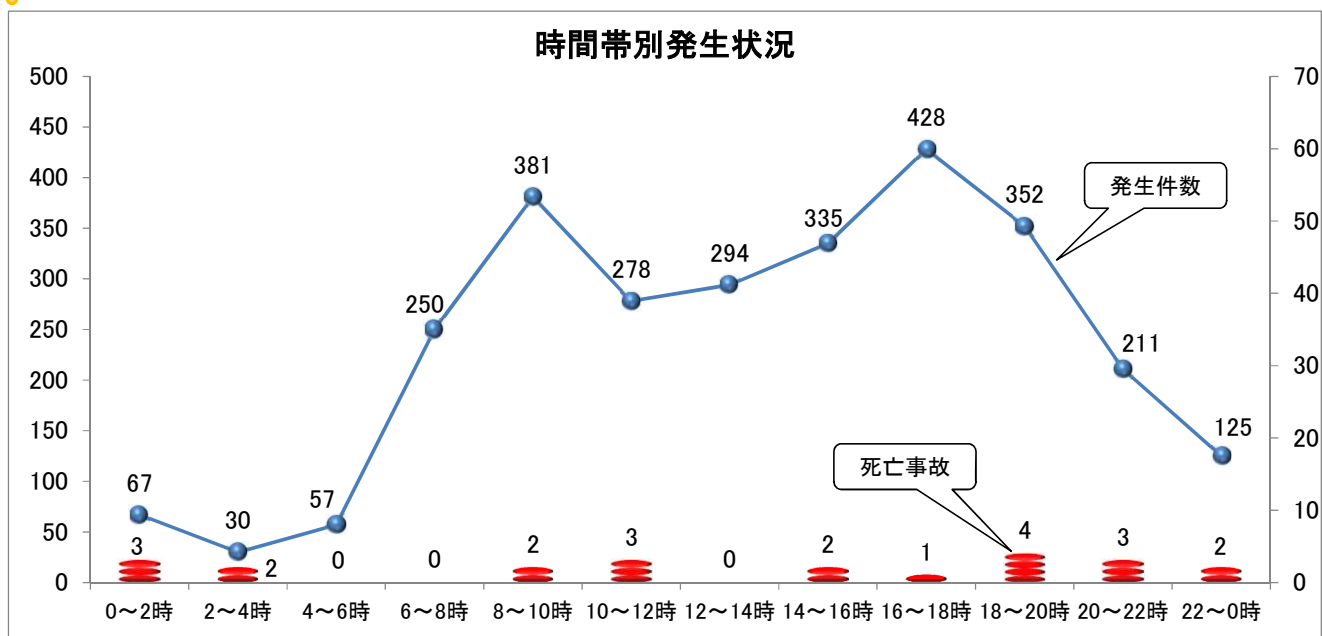
第2 令和2年中の交通事故発生状況

15 月別発生状況



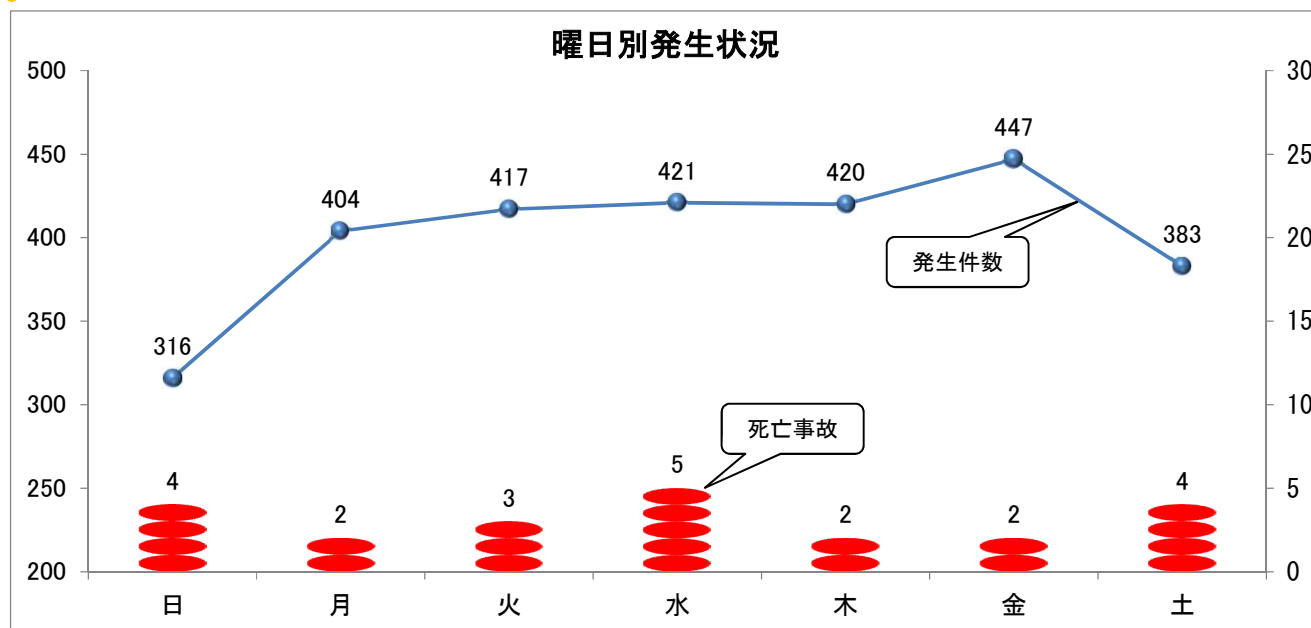
発生件数は、1ヶ月平均約234件で、10月(286件)が最も多く、5月(158件)が最も少なくなっています。
死者数は、8月が4人で最も多く、4月、5月、7月の死者はありませんでした。

16 時間帯別発生状況



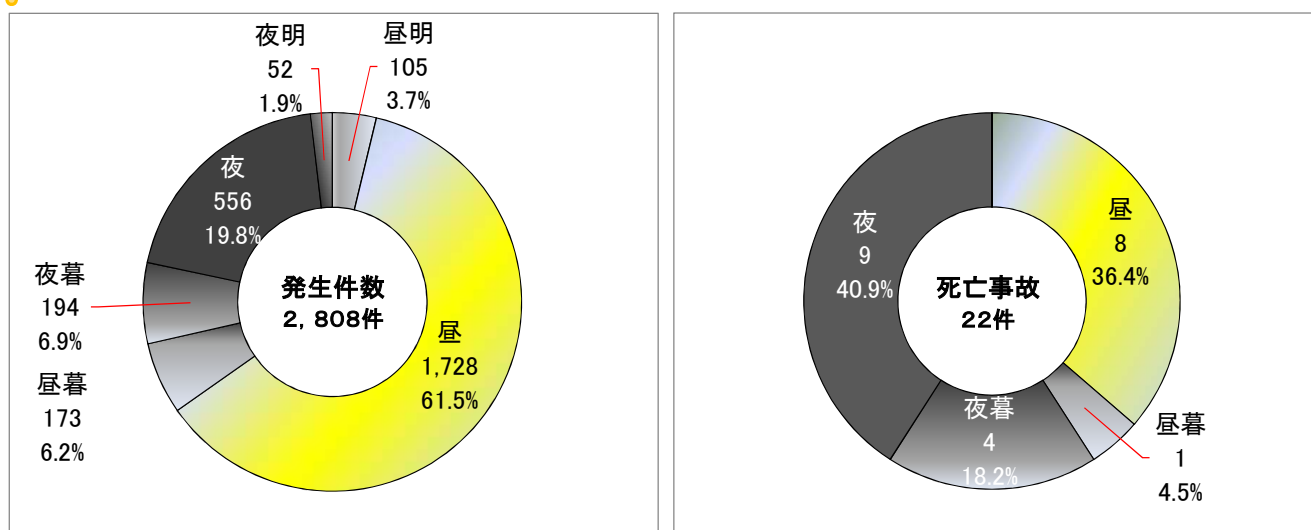
発生件数は、登校・出勤時間帯(8時～10時)と下校・帰宅時間帯(16時～18時)の発生が多くなっています。
死亡事故は18時～20時の時間帯に最も多くなっています。

17 曜日別発生状況

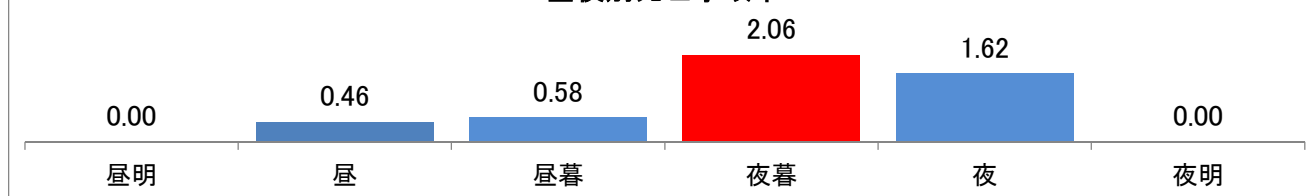


発生件数は、金曜日(447件)が最も多く、日曜日(316件)が最も少なくなっています。
死亡事故は、水曜日(5件)で最も多く、次いで土曜日と日曜日(各4件)となっています。

18 昼夜別発生状況

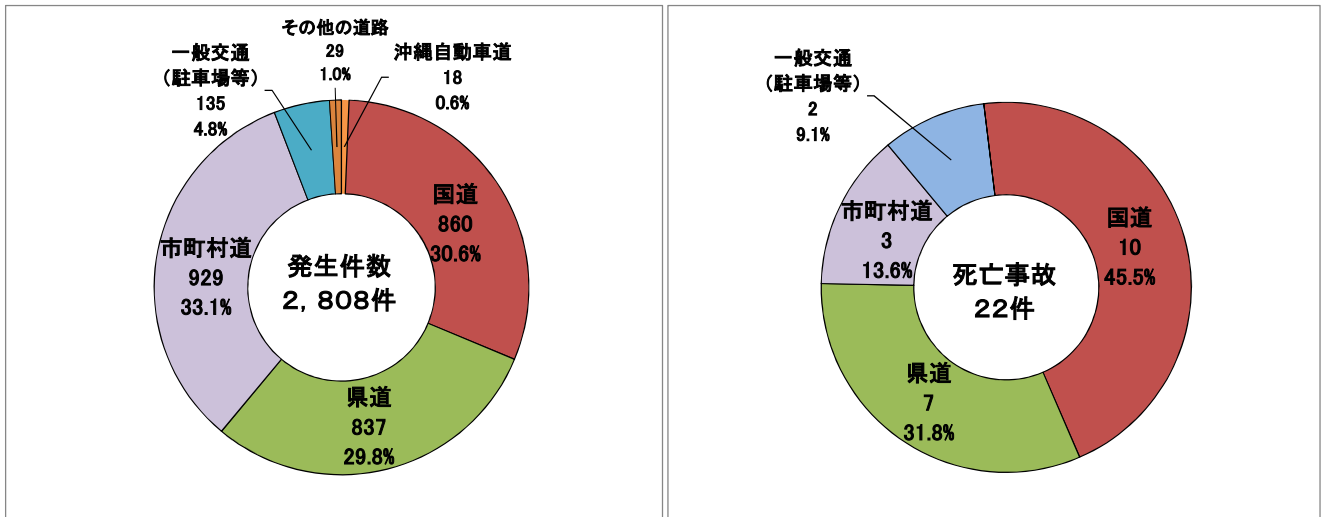


昼夜別死亡事故率



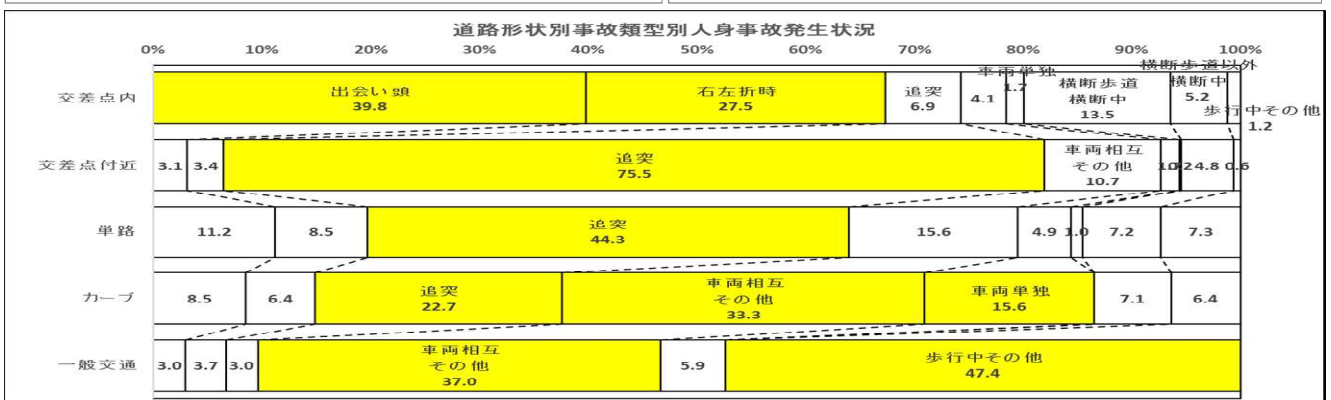
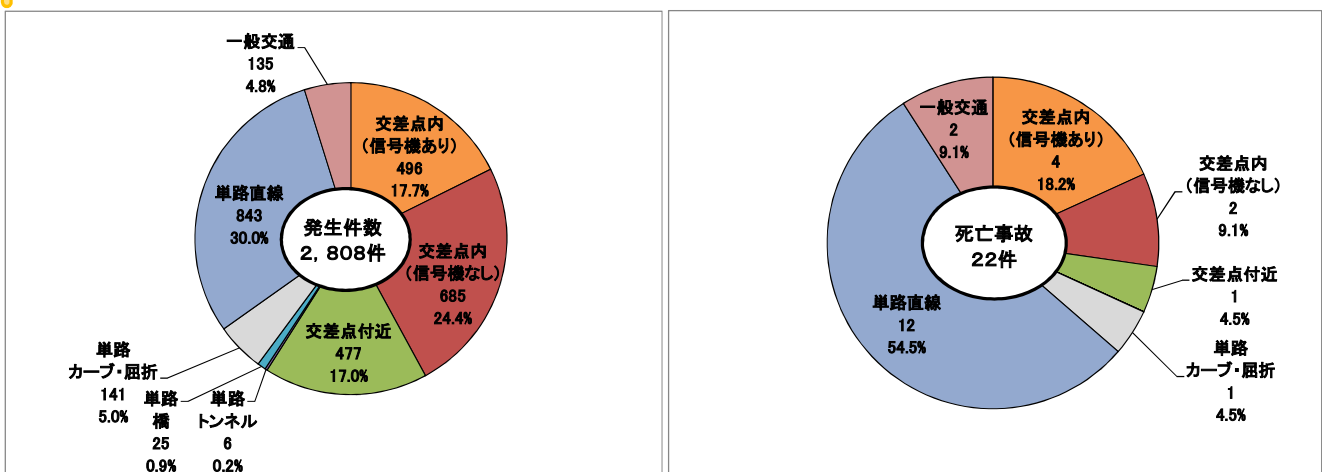
発生件数は、昼(1,728件)が最も多く、薄暮等時間帯(昼明、昼暮)を含む昼間の事故は、71.4%を占めています。
死亡事故は、夜(9件)が最も多く、薄暮時間帯(夜暮、夜明)を含む夜間の死亡事故は、59.1%を占めています。
死亡事故率は、夜暮(2.06%)が最も高く、次いで夜(1.62%)となっています。

19 路線別発生状況



発生件数は、市町村道(929件)が最も多く、次いで国道(860件)となっています。
死亡事故は、国道(10件)が最も多くなっています。

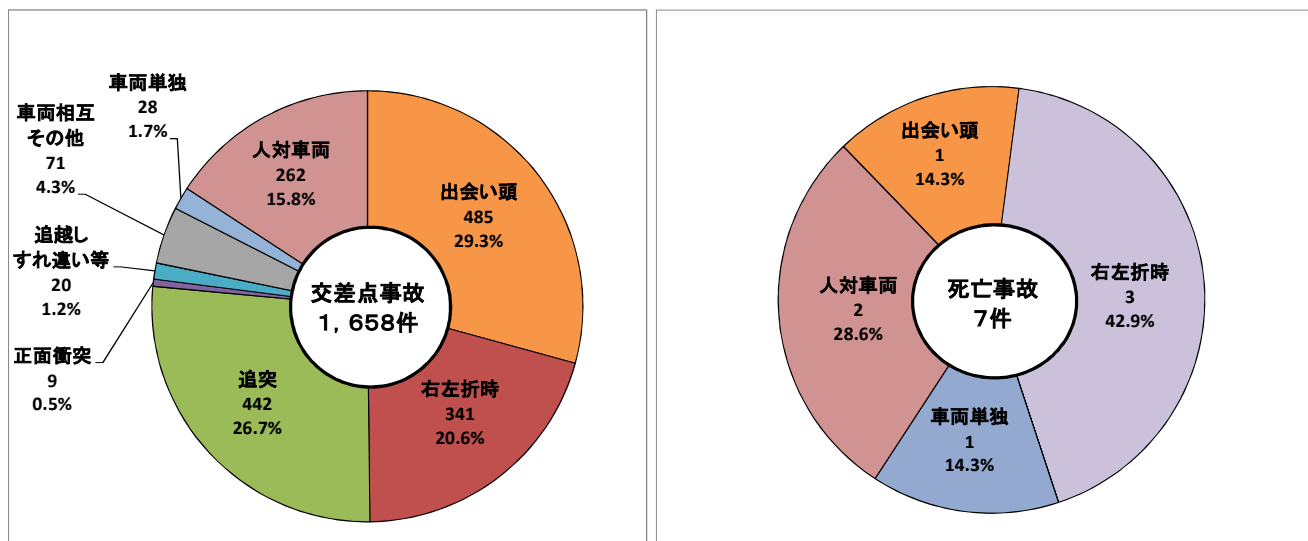
20 道路形状別発生状況



発生件数は、単路直線(843件)が最も多く、次いで信号機のない交差点内(685件)となっています。
死亡事故は、単路直線(12件)が最も多く、全体の54.5%を占めています。
交差点内の発生件数は出会い頭と右左折時で約7割(67.3%)を占め、交差点付近は追突で75.5%を占めています。

21 交差点事故発生状況

交差点(付近を含む)事故の事故類型別発生状況



交差点事故(交差点付近を含む)は、出会い頭(485件)が最も多く、次いで追突(442件)、右左折時(341件)の順となっており、これらで約8割(76.5%)を占めています。

交差点事故の発生件数が多い市町村

市町村名	発生件数	事故類型の内訳									
		交差点事故	構成率	出会い頭	右左折時	追突	正面衝突	追越しすれ違い時	車両相互その他	車両単独	人対車両
1 那覇市	736	461	62.6	129	109	91	2	6	26	9	89
2 沖縄市	311	193	62.1	49	32	63	1	1	5	4	38
3 浦添市	314	170	54.1	49	38	44		2	9		28
4 うるま市	166	94	56.6	26	13	25	1	2	4	2	21
5 宜野湾市	172	93	54.1	26	16	29		3	1	1	17
6 北谷町	102	63	61.8	15	17	19	1	1	4		6
7 豊見城市	89	61	68.5	20	20	12			3	1	5
8 名護市	125	61	48.8	23	11	17	1	1	1		7
9 糸満市	90	53	58.9	15	10	12		1	2	3	10
10 南風原町	75	51	68.0	16	11	14	1		2	1	6
全体	2,808	1,658	59.0	485	341	442	9	20	71	28	262

22 事故多発交差点

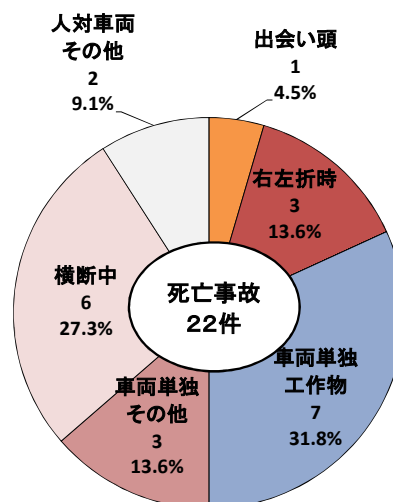
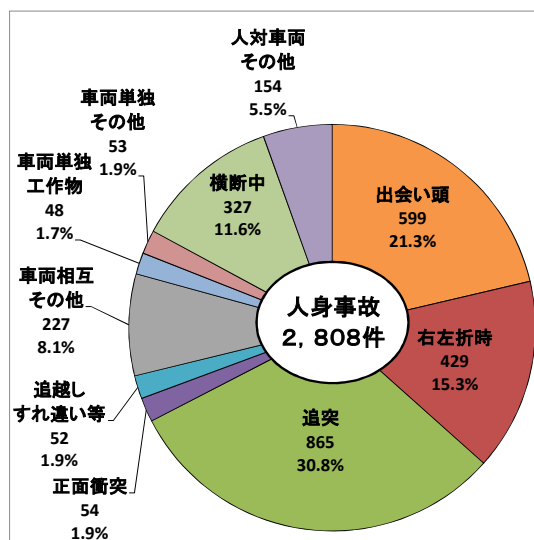
事故多発交差点(人身事故)

	多発交差点	管轄警察署	市区町村	主路線	発生件数	事故類型別発生件数								
						横断歩道横断中	横断中その他	人対車両その他	出会い頭	追突	右折直進	右折時その他	左折時	車両相互その他
1	古島インター	那覇署	那覇市	県道82号線	9					4	4			1
2	砂辺南交差点	沖縄署	北谷町	国道58号	7	1	1			1	2			2
4	上之屋交差点	那覇署	那覇市	国道58号	6	4				1				1
4	泊ふ頭入口交差点	那覇署	那覇市	国道58号	6		1			1	3	1		
4	北谷交差点	沖縄署	北谷町	国道58号	6						5		1	

令和2年中の交差点事故は、古島インターが9件で最も多く、次いで砂辺南交差点が7件の順となっています。

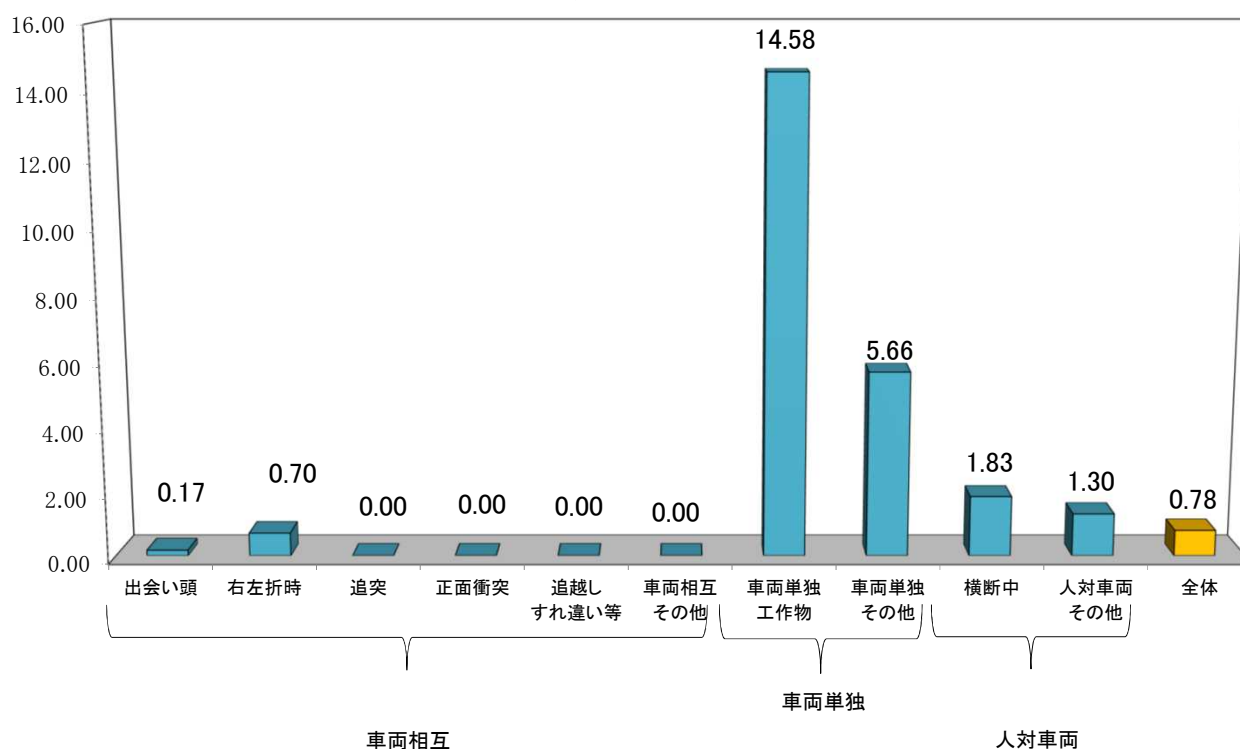
23 事故類型別発生状況

人身事故と死亡事故の事故類型別発生状況



事故類型別の交通事故発生状況は、追突、出会い頭、右左折時が多く、全体の約7割(67.4%)を占めています。死亡事故は、車両単独が45.5%、人対車両が36.4%、車両相互が18.2%となっています。

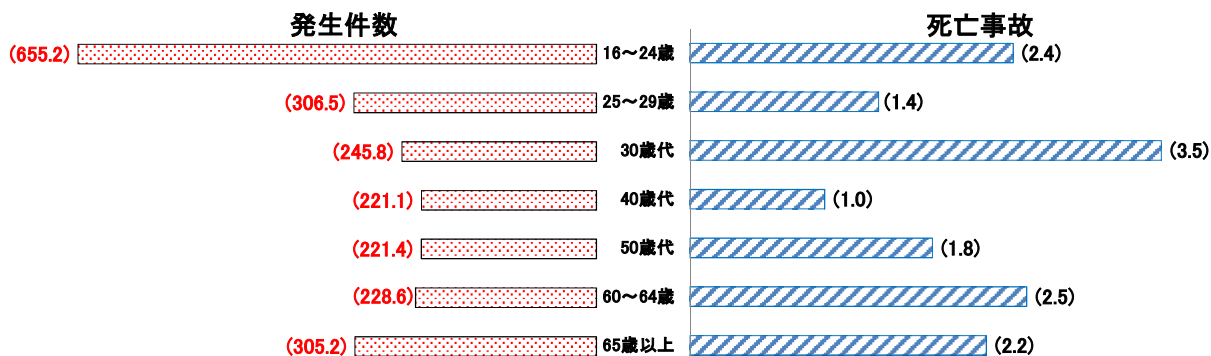
事故類型別死亡事故率



交通事故に占める死亡事故率は、車両単独工作物が14.58%と最も高く、全体(0.78%)の約19倍となっています。

24 年齢層別発生状況

原付以上運転者(第1当事者)の年齢層別運転免許保有者10万人当たり交通事故件数



※ 上記の年齢層別の運転免許保有者数は、令和元年12月末の資料による。

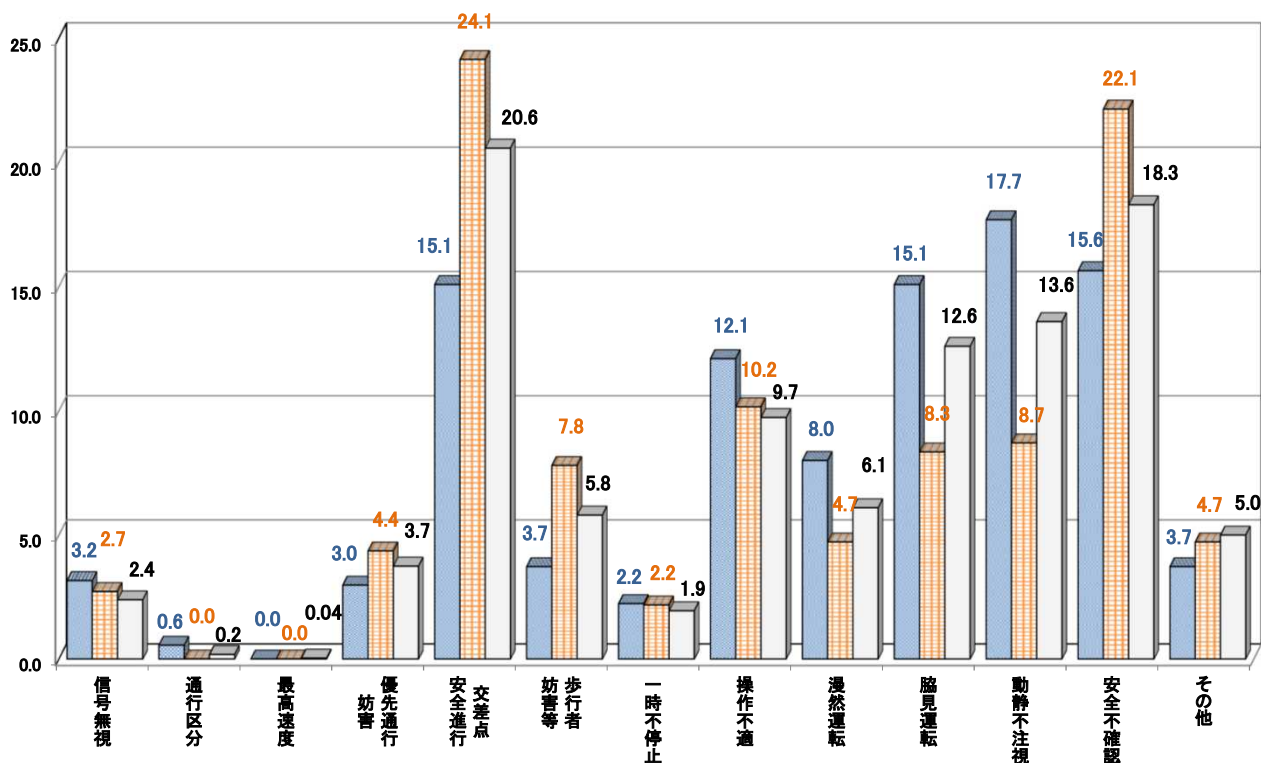
令和2年中の運転免許保有者10万人当たりの発生件数は、若年者(16～24歳)(655.2件)が最も多く、次いで25～29歳(306.5件)となっています。

また、死亡事故は、30歳代(3.5件)が最も多く、次いで60～64歳(2.5件)となっています。

25 法令違反別・年齢層別発生状況

原付以上運転者(第1当事者)の法令違反別・年齢層別交通事故の構成率

■若年者 ■高齢者 □全体

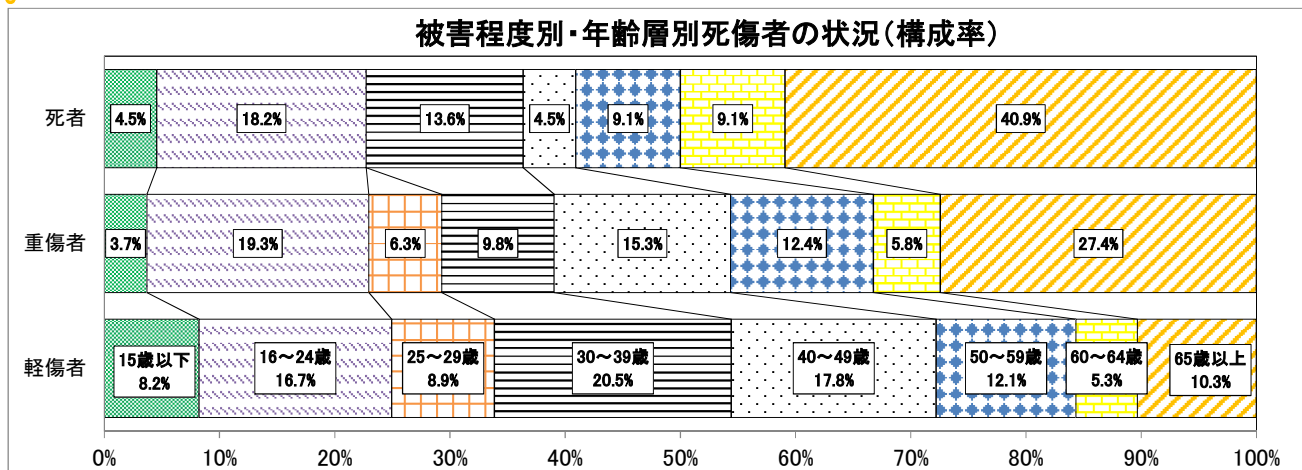


交通事故全体の法令違反は、交差点安全進行義務違反(20.6%)の割合が最も高く、次いで安全不確認(18.3%)の割合が高くなっています。

若年者(16～24歳)は、動静不注視(17.7%)、安全不確認(15.6%)の割合が高くなっています。

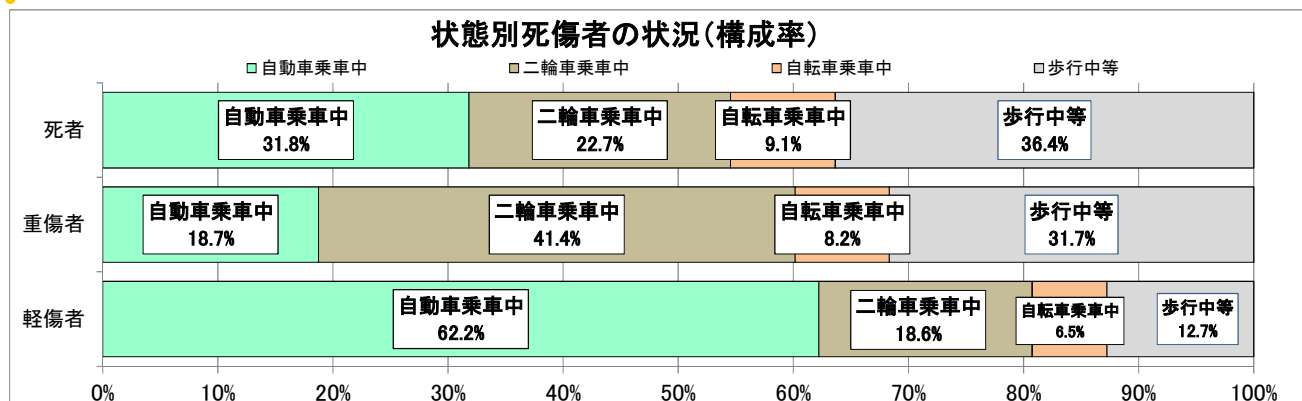
高齢者は、交差点安全進行義務違反(24.1%)、安全不確認(22.1%)等の割合が高くなっています。

26 年齢層別死傷者の状況



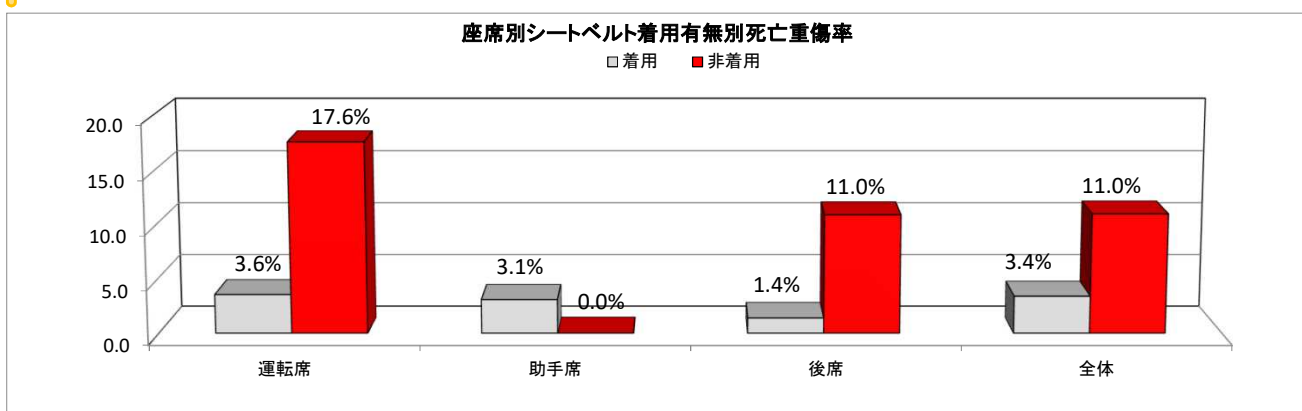
被害程度別の構成率が最も高い年齢層は、死者及び重傷者は、高齢者(65歳以上)(死者 40.9%・重傷者 27.4%)で、軽傷者は30~39歳(20.5%)となっています。

27 状態別死傷者の状況



死傷者の状態別状況は、死者は歩行中等(36.4%)の割合が最も高く、重傷者は二輪車乗車中(41.4%)、軽傷者は自動車乗車中(62.2%)が高くなっています。

28 シートベルト着用状況



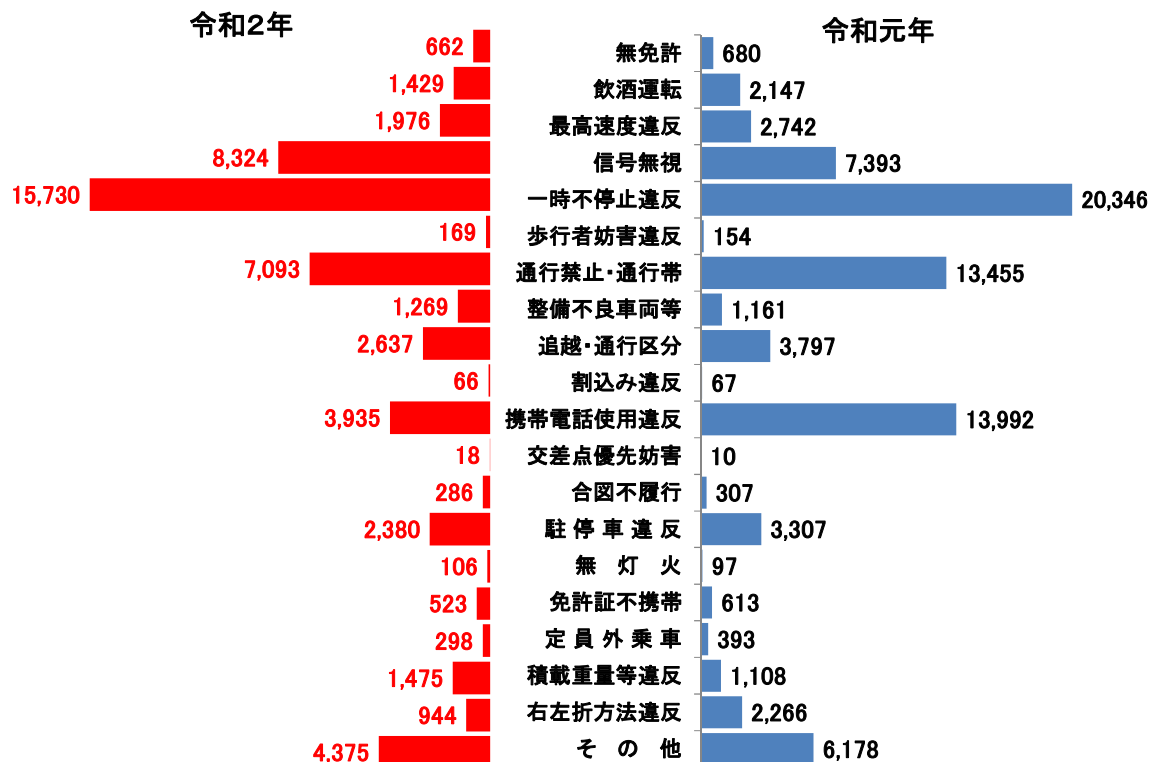
シートベルト(チャイルドシートを含む。)着用有無別死亡重傷率は、着用者3.4%に対して、非着用の死亡重傷率が3.2倍の11.0%となっています。

座席位置別の死亡重傷事故率は、運転席の非着用が17.6%と高く、着用者の4.9倍となっています。

第3 交通指導取締状況

29 交通違反検挙状況

令和2年中の道路交通法違反等の検挙件数は、53,939件で前年比26,625件(33.0%)減少しました。
重大事故に直結する悪質・危険・迷惑性の高い飲酒運転を含む交通三悪(飲酒運転、無免許運転、最高速度違反)の検挙は4,067件で前年比1,502件(27.0%)減少しました。



道路交通法違反等取締り状況

区分 違反別			令和2年		令和元年			
			検挙(告知)		検挙(告知)		増減数	増減率
			件数	構成率	件数	構成率		
道路 交通 法 違 反	交通三悪	無免許	662	1.2	680	0.8	-18	-2.6
		飲酒運転	1,429	2.6	2,147	2.7	-718	-33.4
		最高速度違反	1,976	3.7	2,742	3.4	-766	-27.9
		交通三悪計	4,067	7.5	5,569	6.9	-1,502	-27.0
	交差点違反	信号無視	8,324	15.4	7,393	9.2	931	12.6
		一時不停止違反	15,730	29.2	20,346	25.3	-4,616	-22.7
		歩行者妨害違反	169	0.3	154	0.2	15	9.7
		交差点違反計	24,223	44.9	27,893	34.6	-3,670	-13.2
	その他	通行禁止・通行帯	7,093	13.2	13,455	16.7	-6,362	-47.3
		整備不良車両等	1,269	2.4	1,161	1.4	108	9.3
		追越・通行区分	2,637	4.9	3,797	4.7	-1,160	-30.6
		割込み違反	66	0.1	67	0.1	-1	-1.5
		携帯電話使用違反	3,935	7.3	13,992	17.4	-10,057	-71.9
		交差点優先妨害	18	0.0	10	0.0	8	80.0
		合図不履行	286	0.5	307	0.4	-21	-6.8
		駐停車違反	2,380	4.4	3,307	4.1	-927	-28.0
		無灯火	106	0.2	97	0.1	9	9.3
		免許証不携帯	523	1.0	613	0.8	-90	-14.7
		定員外乗車	298	0.6	393	0.5	-95	-24.2
		積載重量等違反	1,475	2.7	1,108	1.4	367	33.1
		右左折方法違反	944	1.8	2,266	2.8	-1,322	-58.3
		その他	4,375	8.1	6,178	7.7	-1,803	-29.2
		合計	53,939	99.5	80,213	99.6	-26,518	-33.1
	その他交通関係法令違反		244	0.5	351	0.4	-107	-30.5
	総合計		53,939	100.0	80,564	100.0	-26,625	-33.0

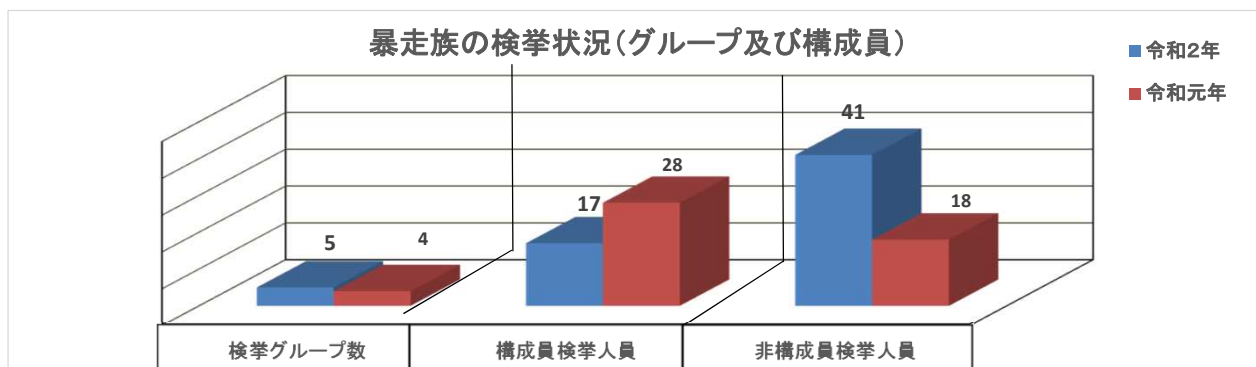
注1 その他交通関係法令違反とは、「道路運送法、道路運送車両法、保管場所法、道路法」の違反である。

注2 その他交通関係法令違反には、教唆、幫助、不申告も含む。

注3 駐停車違反に放置駐車確認標章貼付件数は含まない。

30 暴走族等検挙状況

令和2年中の暴走族の検挙状況は、5グループ、58人（構成員17人、非構成員41人）を検挙しています。年齢別では、16歳及び17歳がそれぞれ14人（24.1%）と最も多くなっています。職業別では、建築関係が29人（50.0%）で最も多く、次いで高校生が15人（25.9%）の順となっています。



年齢別検挙状況（非構成員含む）

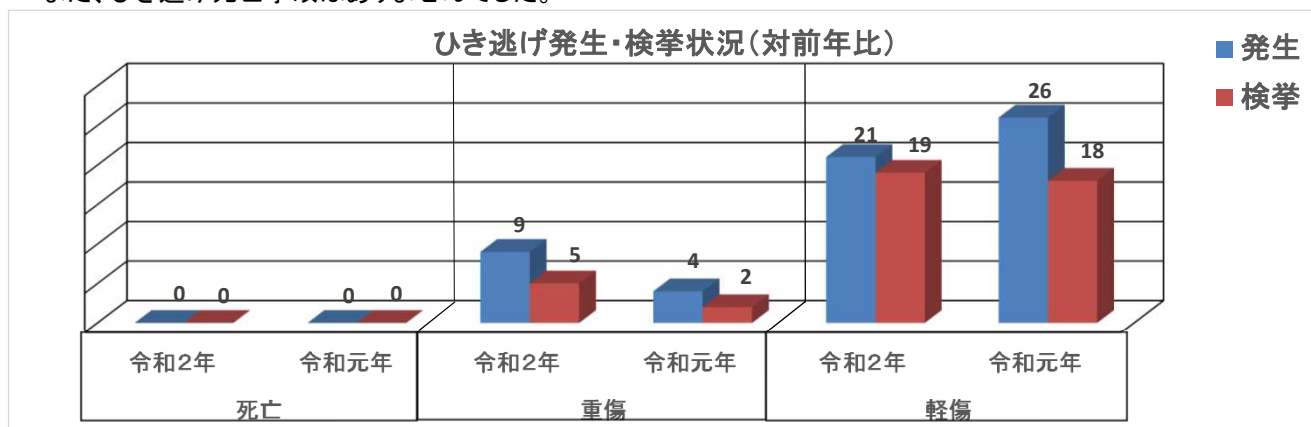
区 分	15歳以下	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳	20歳以上	合 計
令和2年	4	14	14	8	7	11	58
構 成 比	6.9%	24.1%	24.1%	13.8%	12.1%	19.0%	100%
令和元年	6	4	13	15	6	2	46
構 成 比	13.0%	8.7%	28.3%	32.6%	13.0%	4.3%	100%

職業別検挙状況（非構成員含む）

区 分	中 学 生	高 校 生	その他の学生	建築関係	その他の職業	無 職	合 計
令和2年	1	15	0	29	5	8	58
構 成 比	1.7%	25.9%	0.0%	50.0%	8.6%	13.8%	100%
令和元年	2	9	1	20	9	5	46
構 成 比	4.3%	19.6%	2.2%	43.5%	19.6%	10.9%	100%

31 ひき逃げ発生検挙状況

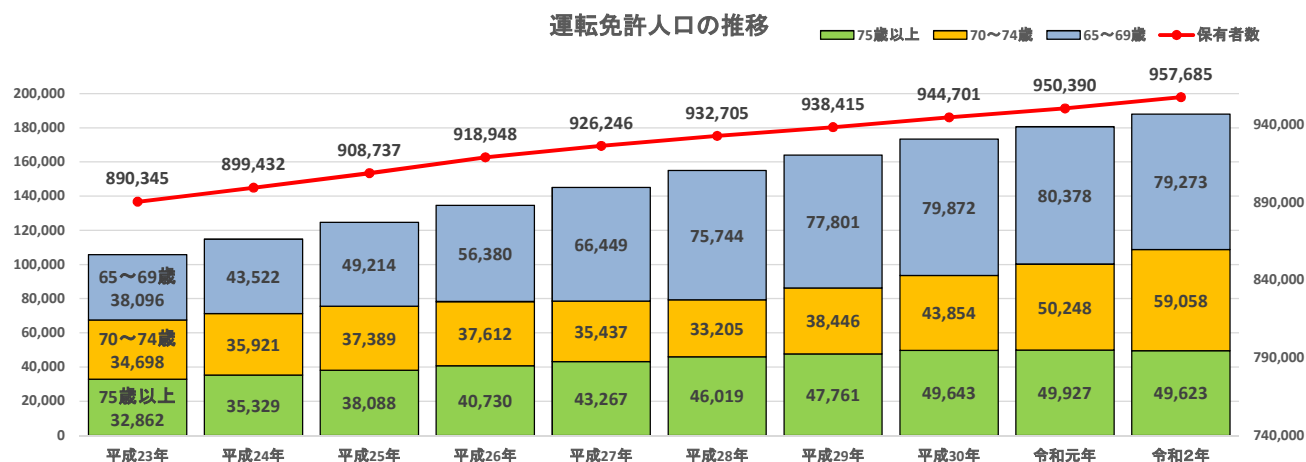
令和2年中のひき逃げ事件は、30件発生し、24件（80%）を検挙しました。また、ひき逃げ死亡事故はありませんでした。



	死 亡			重 傷			軽 傷			合 計		
	発生	検挙	検挙率	発生	検挙	検挙率	発生	検挙	検挙率	発生	検挙	検挙率
令和2年	0	0	-	9	5	55.6	21	19	90.5	30	24	80.0
令和元年	0	0	-	4	2	50.0	26	18	69.2	30	20	66.7
増減数	0	0	-	5	3	5.6	-5	1	21.2	0	4	13.3
増減率	-	-	-	125.0	150.0	-	-19.2	5.6	-	0	20.0	-

第4 運転免許

32 運転免許人口の推移



県内の運転免許保有者数は957,685人で、前年比7,295人(0.8%)の増加となっています。

高齢者の年齢層別では、65歳～69歳が79,273人(前年比 1,105人減)、70歳～74歳が59,058人(8,810人増)、75歳以上が49,623人(304人減)となっています。

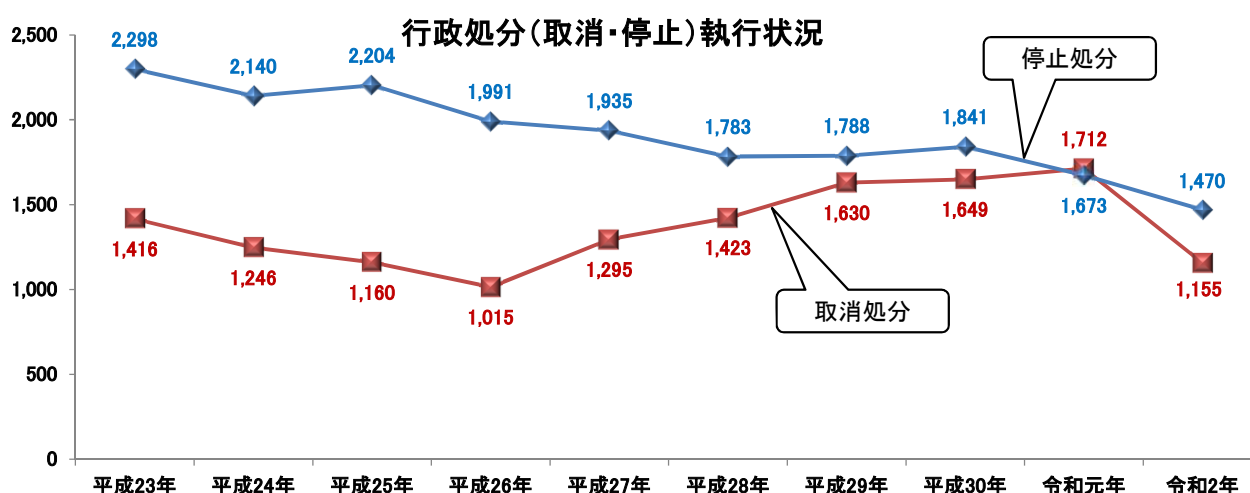
33 点数制度

点数制度は、交通違反や交通事故にあらかじめ一定の点数を付し、3年間の合計点数の多寡に応じて、免許の拒否、保留及び取消し、停止等の処分を行なうことを内容とする制度です。

点数の計算は、原則として処分の理由となる違反行為(一般違反行為及び特定違反行為)及び当該違反行為をした日から過去3年以内における違反点数を合計することとされています。

点数計算の例外として、違反行為をしないうで、免許を受けていた期間(当該免許の効力が停止されていた期間を除く。)が通算して1年となった場合は、その期間前の違反行為については、累積点数を計算する場合の「その他の違反行為」には含まないこととされています。

34 行政処分執行状況の推移



令和2年中は、2,625人に対して行政処分を執行しており、うち取消処分を受けたのは1,155人、停止処分を受けたのは1,470人となっています。

令和2年中に停止処分を受けた者は、10年前(平成23年)より36%減少しています。

35 運転免許証自主返納制度

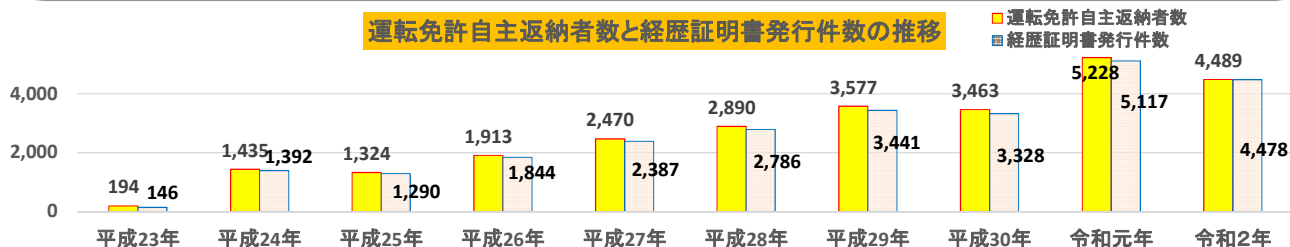
病気や高齢等の理由で運転免許の継続を希望しない運転者が、運転免許証を自主返納して運転免許の取消しを受ける制度です。

運転免許証を自主返納した場合は、申請により運転経歴証明書の交付を受けることができます。

沖縄県警察では、県内公共交通機関等の協力のもと公共交通機関の運賃割引、眼鏡等の商品購入代、温泉等保養施設利用料金の割引等の支援制度を設けています。

※ 令和元年12月の道路交通法の一部改正により、平成28年4月1日以降の失効者も申請できるようになりました。

運転免許自主返納者数と経歴証明書発行件数の推移



※ 平成23年～令和元年は確定数、令和2年は概数

運転経歴証明書(見本)

受付場所・連絡先	受付(祝祭日、年末・年始の休日を除く。)	
	曜日	時間
運転免許センター 豊見城市字豊崎3番22 (電話 098-851-1000 免許第1係)	月曜日～金曜日	午前8時30分～午前11時30分 午後1時00分～午後4時45分
	日曜日	午後2時30分～午後4時00分
安全運転学校中部分校 沖縄市南桃原4丁目27番22号 (電話 098-933-0442)	月曜日～金曜日	午前8時30分～午前11時30分 午後1時00分～午後4時45分
安全運転学校北部分校 名護市東江5丁目20番5号 (電話 0980-53-1301)		
安全運転学校宮古分校 宮古島市平良下里3107番地の4 (電話 0980-72-9990)		
安全運転学校八重山分校 石垣市平得343番地の2 (電話 0980-82-9542)		
各警察署交通課又は那覇警察署、沖縄警察署の交通対策課、離島指定駐在所等		
		午前9時30分～午前11時30分 午後1時00分～午後5時45分

運転経歴証明書(見本)

氏名 ○ ○ ○ ○ 昭和○年○月○日生

住所 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

交付 平成○年○月○日 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

運転経歴証明書
(自動車等の運転はできません)

第 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 号

平成○年○月○日 平成○年○月○日 平成○年○月○日

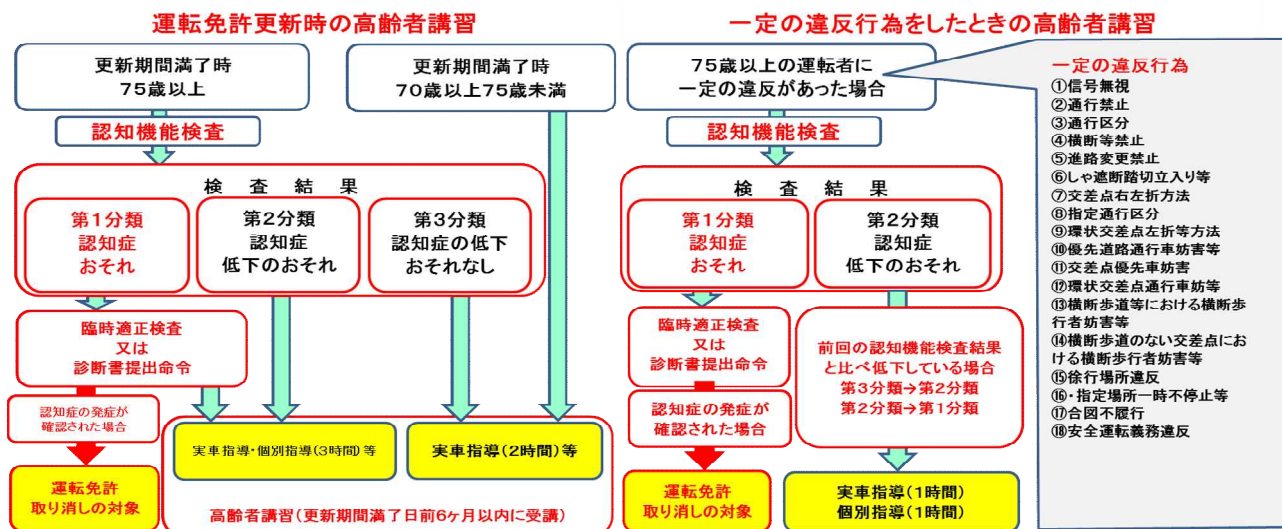
○ ○ ○ ○ 公安委員会

36 高齢者講習と認知機能検査

運転免許の有効期間が満了する日における年齢が70歳以上の免許保有者が運転免許の更新をする場合は、更新期間満了6ヶ月以内に高齢者講習を受講する必要があります。

また、年齢が75歳以上の場合は、認知機能検査を受検後、その結果に応じた高齢者講習を受講する必要があり、認知機能検査の結果が「認知症のおそれあり」と判定された場合には、臨時適正検査又は主治医の診断書の提出命令を受け、認知症の発症が確認された場合、免許の取消し処分の対象となる。

※ 75歳以上の免許保有者が信号無視など18種の交通違反を行った場合、臨時認知機能検査を実施することとなり、臨時認知機能検査の結果が前回実施した認知機能検査の結果に比べ認知機能が低下している場合、臨時高齢者講習の対象となります。



高齢者講習受講者数と認知機能検査受験者数の推移

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
高齢者講習	18,445	17,520	18,554	20,945	22,695	22,364	21,867	22,601	27,171	30,190
	99	81	225	344	356	360	427	497	445	400
	2,369	2,220	3,241	4,088	4,114	4,056	4,366	4,679	4,473	4,075
	8,011	9,147	9,999	8,990	9,798	10,499	12,381	12,679	13,485	12,788
認知機能検査	10,479	11,448	13,465	13,422	14,268	14,915	17,174	17,855	18,403	17,263

第5 交通規制、交通安全施設

37 一般道路の交通規制実施状況

実施状況			令和2年12月末累計	
規制種別			区間等	延長(m)
通行の禁止	歩行者用道路	歩行者天国	0	0
		通学・通園路	122	24,925
		その他	107	16,803
		計	229	41,728
	上記通行以外禁止	大型車通行止	216	102,870
		特定貨物車等通行止	7	4,970
		二輪以外の自動車通行止	5	16,415
		車両通行止	15	10,568
		二輪の自動車原付通行止	6	8,170
		自転車通行止	3	4,380
		バス以外の車両通行止め(バス専用道路)	5	5,480
		自転車以外の車両通行止め	1	20
		その他の通行止	4	1,997
		計	262	154,870
	一方通行		634	153,299
	指定方向外進行禁止		1,350	—
	歩行者横断禁止		47	31,320
	中央線変移	交差点付近	69	6,034
		その他	17	11,667
専通行帯	追越しのための右側部分はみ出し通行禁止		7	7,430
	片側側		402	1,063,082
	立入禁止部分		0	—
	路線バス等	片側側	23	31,890
		片側側	0	0
		二輪車	0	0
	自転車		0	0
	その他車両通行区分指定		19	114,788
	路線バス等優先通行帯	片側側	0	0
		片側側	0	0
	軌道敷内通行可		0	0
最高速度	区間	80 km/h	0	0
		70 km/h	0	0
		60 km/h	2	14,950
		50 km/h	143	387,823
		40 km/h	1,185	1,597,510
		30 km/h	1,098	874,249
		30 km/h未満	222	88,022
		小計	2,650	2,962,554
	区域	40 km/h	1	3,670
		30 km/h	33	141,675
		20 km/h	1	3,840
		小計	35	149,185
	合計		2,685	3,111,739
	最低速度		0	0
	車両横断禁止		8	6,116
	転回禁止		91	32,426
	進路変更禁止		539	20,939
	追越し禁止	片側側	0	0
		両側側	0	0

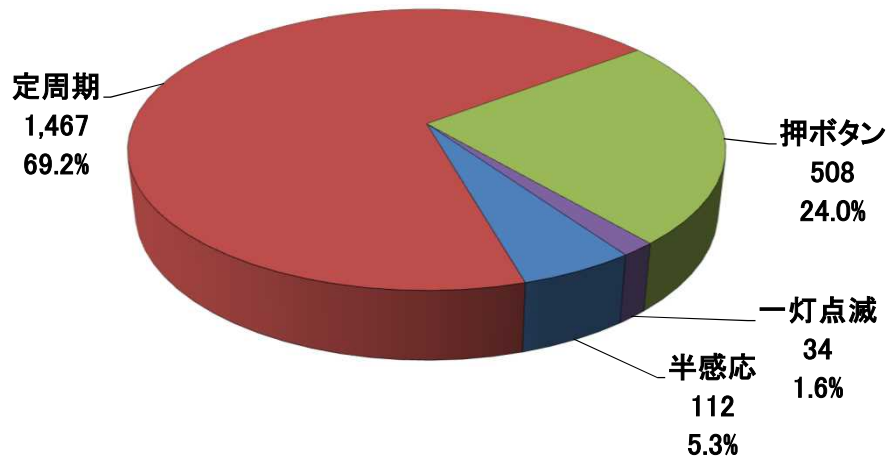
規 制 種 別			実 施 状 況		令和2年12月末累計	
					区間等	延長(m)
優 先 道 路					0	0
右 左 折 の 方 法					12	－
二段階右折 対象交差点	二 段 階 右 折		0		－	
	小 回 り 指 定		104		－	
環 状 の 交 差 点 に お け る 右 回 り 通 行					2	－
進 行 方 向 別 通 行 区 分					639	－
徐 行 (場 所)					37	－
一 時 停 止					9,857	－
駐 停 車 禁 止	片 側		20		12,621	
	側 側		169		130,666	
駐 車 禁 止	区 間	片 側	60		41,375	
			3,757		1,863,276	
	区 域		1		－	
駐 車 方 法 の 指 定	平 行		18		－	
	直 角		3		－	
	斜 め		2		－	
駐 車 可 の 指 定					30	2,823
停 車 可 の 指 定					0	0
時間制限 駐車区間	P・Mの 設置	片 側	4		480	
			1		430	
	P・T発給 設備の設置	片 側	1		15	
			0		0	
停 止 禁 止 部 分					60	－
警 笛 鳴 ら せ	場 所		8		－	
	区 間		0		0	
普 通 自 転 車 歩 道 通 行 可					88	356,690
普 通 自 転 車 の 歩 道 通 行 部 分					4	6,840
普 通 自 転 車		交 差 点 数		0	－	
交 差 点 進 入 禁 止		交 差 点 数		0	－	
横断歩道	信 号 有		5,138		－	
	信 号 無		7,333		－	
斜 め 横 断 可					5	－
安 全 地 帯					0	－
導 流 地 帯					0	－
路 面 電 車 停 留 場					0	－
自 転 車 横 断 帯	信 号 有		23		－	
	信 号 無		41		－	
二 段 停 止 線		交 差 点 数		0	－	
		交 差 点 数		0	－	
左 折 可					61	－

38 信号機の設置状況

令和2年12月末の信号機設置状況は、2,121基、うち半感应式が112基、定周期式が1,467基、押しボタン式が508基、一灯点滅式が34基となっています。

また、道路実延長10km当りの信号機設置状況は、那覇市が8.68基で最も多く、次いで宜野湾市7.27基、浦添市7.22基等の順となっています。

信号機設置状況



令和2年12月31日現在

市町村名	半感应	定周期	押しボタン	一灯点滅	計	人口	人口千人当 設置数	道路実延 長距離	10km当 設置数
那 覇 市	5	298	104	1	408	322,011	1.27	469,783	8.68
宜 野 湾 市	0	87	29	4	120	99,678	1.20	165,083	7.27
石 垣 市	1	62	17	5	85	49,824	1.71	511,927	1.66
浦 添 市	6	97	19	3	125	115,340	1.08	173,101	7.22
名 護 市	8	87	26	0	121	63,389	1.91	521,511	2.32
糸 満 市	4	69	21	1	95	62,191	1.53	273,025	3.48
沖 縄 市	7	142	49	2	200	142,634	1.40	420,739	4.75
豊 見 城 市	2	63	10	1	76	64,953	1.17	168,164	4.52
う る ま 市	8	126	49	1	184	124,457	1.48	562,499	3.27
宮 古 島 市	2	76	11	4	93	55,434	1.68	1,159,497	0.80
南 城 市	7	30	13	1	51	44,245	1.15	367,704	1.39
国 頭 村	2	2	3	0	7	4,673	1.50	173,255	0.40
大 宜 味 村	1	0	3	0	4	3,067	1.30	100,786	0.40
東 村	0	1	0	0	1	1,764	0.57	78,670	0.13
今 帰 仁 村	0	4	10	2	16	9,356	1.71	163,746	0.98
本 部 町	5	15	9	0	29	13,191	2.20	179,820	1.61
恩 納 村	14	14	20	0	48	11,064	4.34	92,099	5.21
宜 野 座 村	1	4	7	0	12	6,106	1.97	102,816	1.17
金 武 町	7	7	10	0	24	11,455	2.10	113,259	2.12
伊 江 村	0	3	1	0	4	4,524	0.88	189,730	0.21
読 谷 村	5	36	10	2	53	41,481	1.28	146,511	3.62
嘉 手 納 町	5	19	5	1	30	13,524	2.22	46,025	6.52
北 谷 町	1	43	5	1	50	28,912	1.73	108,071	4.63
北 中 城 村	0	30	6	0	36	17,510	2.06	90,207	3.99
中 城 村	7	16	18	1	42	21,762	1.93	124,039	3.39
西 原 町	4	35	10	0	49	35,451	1.38	120,142	4.08
与 那 原 町	1	21	10	0	32	19,982	1.60	53,985	5.93
南 風 原 町	4	47	11	1	63	39,905	1.58	123,001	5.12
渡 嘉 敷 村	0	0	1	0	1	711	1.41	19,880	0.50
座 間 味 村	0	0	1	0	1	914	1.09	27,119	0.37
粟 国 村	0	0	1	0	1	696	1.44	47,055	0.21
渡 名 喜 村	0	0	1	0	1	356	2.81	9,050	1.10
南 大 東 村	0	0	1	0	1	1,262	0.79	59,977	0.17
北 大 東 村	0	1	0	0	1	589	1.70	36,147	0.28
伊 平 屋 村	0	0	1	0	1	1,231	0.81	80,435	0.12
伊 是 名 村	0	0	1	0	1	1,408	0.71	85,607	0.12
久 米 島 町	0	3	4	0	7	7,772	0.90	226,287	0.31
八 重 瀬 町	5	25	10	3	43	31,537	1.36	266,500	1.61
多 良 間 村	0	1	0	0	1	1,122	0.89	123,056	0.08
竹 富 町	0	1	1	0	2	4,342	0.46	183,627	0.11
与 那 国 町	0	2	0	0	2	1,716	1.17	140,767	0.14
合計	112	1,467	508	34	2,121	1,481,539	1.43	8,104,702	2.62

注1 人口は、住民基本台帳による。(令和2年1月1日現在)

2 道路実延長距離は、沖縄県土木建築部道路施設現況調査(平成30年4月1日現在)による。(沖縄自動車道及び那覇空港自動車道は含まれない。)

第6 各種交通事故防止対策

39 飲酒絡み事故防止対策

1 飲酒運転根絶対策

県警察では、「沖縄県飲酒運転根絶条例」に基づいた県民総ぐるみの飲酒運転根絶活動を展開するため

- 飲酒運転根絶に向けた交通安全教育の推進
- 飲酒運転根絶県民大会の実施
- 「飲酒運転の根絶運動の日」(毎月1日)における取り組み
- 飲酒運転根絶対策優良事業所の認定
- 交通ボランティア等と連携した広報啓発
- コミュニティFMなどを活用した広報啓発
- 自治体等の電光掲示板を活用した広報啓発

など各種施策を関係機関・団体等を連携して推進しております。



【飲酒運転根絶講話の実施】



【飲酒運転根絶県民大会】



【交通ボランティアと連携した広報啓発活動】



【飲酒運転根絶宣言書の提出】



【コミュニティFMを活用した広報啓発活動】



【飲酒運転体験講習会の開催】

2 沖縄県飲酒運転根絶条例 ～平成21年10月1日施行～

飲酒運転の根絶を図るためには、「沖縄県飲酒運転根絶条例」の制定趣旨にもありますように、県民ひとり一人が「飲酒運転をしない させない 許さない」社会環境の醸成に向けた取組が重要です。

沖縄県飲酒運転根絶条例 骨子

この条例は、県及び県民等が一体となって飲酒運転の根絶を図り、飲酒運転のない安全で安心な県民生活を実現することを目的とします。

- 県民は家庭や地域、職場で飲酒運転根絶の取り組みに努める
- 公職にある者は範を示すべき立場を深く自覚し、飲酒運転根絶に率先して取り組む
- 事業者は従業員に対し、飲酒運転根絶に関する教育、指導その他必要な措置を講ずるよう努める
- 飲食店、駐車場所所有者は、飲酒運転防止呼び掛けの文書掲示に努める
- 公安委員会は、再発防止の措置として飲酒運転をした者や、その者に酒類提供した飲食店等に対し必要な措置を講ずるものとする
- 県は、飲酒運転をした者及びその家族等からの相談に対して、再発防止のための助言その他必要な措置を講ずるものとする
- 公安委員会は、飲酒運転事故件数や違反者数などの情報を市町村別に作成し、インターネットなどで公表できる
- 県は、総合的な施策推進の基本方針を策定
- 根絶運動の日を毎月1日と定める

3 アルコールに関する正しい知識を！

○ アルコールの処理にかかる時間

飲んだアルコールが肝臓で分解され、体外に排出されるまでには、予想外に時間がかかります。

体内でのアルコールの処理は、体重1kgにつき、1時間で0.1グラムという速度です。たとえば体重60kgの人がアルコール20グラムを処理するには3～4時間かかります。これはあくまでも目安です。

日頃から飲み過ぎがたたって肝臓が弱っていたり、風邪薬を飲んでいたりすると、アルコールの処理はもっと時間がかかるかもしれません。

一晩寝たから大丈夫、では とおいけません！

知っていますか？ 二日酔い

それぞれのアルコール1単位の目安

チューハイ 1単位 350ml アルコール度 7%	泡盛 1単位 100ml アルコール度 25%	ビール 1単位 500ml アルコール度 5%
---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------

酒酔い運転
免許取り消し(欠格期間3年)

酒気帯び運転
0.15～0.25mg/ℓ 免許停止 90日
0.25mg/ℓ 以上 免許取り消し(欠格期間2年)

お酒を飲むときは翌日の仕事を考えて、寝ている間にアルコールが分解される適度の量を飲みましょう。

睡眠8時間
アルコールは徐々に分解

1単位のアルコールが抜ける(分解される)には、**約4時間**かかります。
左のように3単位飲むと…

8時間寝たからといってアルコールが身体で分解されるのは**2単位分**です。

つまり翌朝は**1単位残っている二日酔い状態**なのです。

沖縄県・沖縄県警察・沖縄県交通安全協会連合会

40 二輪車事故防止対策

1 二輪車事故の原因

二輪車事故の原因として、

- 二輪車は街路樹や車両の陰等に入りやすく、車の運転手から見えにくい
- 二輪車は車体が小さいので、四輪車と比べて速度や距離を見誤られやすいことが考えられます。

また、二輪車運転者の中には、ツーリング中の速度超過や無理な追越し、渋滞時のすり抜けや進路変更などの悪質・危険な運転をする者がおり、県内では二輪車事故が多く発生しているほか、交通マナーの悪さも問題となっています。

2 県警察の取組

県警察では、二輪車事故を防止するために、二輪車に対する指導取締りを徹底するとともに、

- 交通事故の実態や悲惨さを周知理解させるための交通安全講話
 - コミュニティFM局や広報誌等を活用した広報啓発活動
- 等のほか、県教育庁や沖縄県二輪車安全普及協会等の関係機関・団体と連携して、
- 高校に出向いての交通安全講話や、白バイ隊員による二輪車実技指導
 - 二輪車販売店等と連携した街頭における二輪車点検指導
- 等の事故防止対策を推進しています。



【白バイ隊員による二輪車実技指導】



【高校生に対する二輪車実技指導】



【二輪車販売店と連携した街頭点検】



【車両検問実施状況】

41 子供の事故防止対策

1 子供の事故の特徴

子供の交通事故の特徴として、

- 歩行中に事故に遭う割合が高い
- 他の年齢と比較して自転車乗車中の事故が多い
- 放課後の事故が多い
- 幼児は、自動車同乗中の事故が多い

ことなどが挙げられます。

2 県警察の取組

県警察では、新入学児童・園児を対象に4月から7月までの間、集中的に

- 子供自転車教室
- 腹話術による交通安全教育
- 模擬信号機を活用した正しい横断方法の指導

等を実施しているほか、小学校を母体とする交通少年団の結成の促進及び活動の支援を行なっています。



【子供自転車交通安全教室】



【新入園児、児童へ横断歩道の渡り方指導】



【腹話術による交通安全教室】



【交通少年団の結成・入団式】

42 自転車事故防止対策

1 自転車事故の原因

自転車事故の原因は、

- 交差点などにおける安全確認が不十分
- 車体が小さく、車両から見落とされやすい
- 免許が無くても乗れるため、自転車の交通ルールやマナーの意識に乏しい

ことが考えられます。

自転車は、誰もが気軽に乗れる便利な乗り物ですが、軽車両に分類され車両の仲間です。自転車の交通ルールとマナーを守って、安全運転を心がけましょう。

■ 自転車安全利用五則

- 1 自転車は車道が原則、歩道は例外(※注)
- 2 車道は左側を通行
- 3 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- 4 安全ルールを守る(飲酒運転の禁止、二人乗りの禁止、並進禁止、信号を守る等)
- 5 子どもはヘルメットを着用

※注 例外とは、普通自転車通行可の標識のある歩道は自転車で通行することができます。
また、13歳未満の子ども、70歳以上の方については、「普通自転車歩道通行可」の標識がなくても歩道を走行することができます。

2 県警察の取組

県警察では、自転車事故を防止するために、悪質な自転車利用者に対する指導・警告を実施するとともに、

- 小学生から高校生までを対象とした自転車教室の開催
- 制服警察官が自転車に乗車してのパトロールの実施等の事故防止対策を推進しています。



【子ども自転車教室】

43 シートベルト・チャイルドシート着用促進対策

1 シートベルト・チャイルドシートの非着用の危険性

通常、成人が手や足で支えられる力は、体重の2倍程度と言われており、例えば60kgの成人男性がいざという時、支えられるのは120kgという事になります。

それがどの程度の威力かという、時速約7キロになります。

速度40キロで走行中に事故にあった場合に、体に加わる力は体重の10倍にも達し、そのため手足で支えきれず、

- 交通事故の衝撃で全身を車内で強打する可能性がある
- 交通事故の衝撃で車外に放り出される可能性がある
- 後部席で着用しなかった場合、前席の人と衝突し、両者が怪我をする可能性がある

ことなどが挙げられます。

2 沖縄県のシートベルト着用率

令和2年に警察とJAFとの合同で実施したシートベルトの着用率を調査した結果、一般道路・高速道路いずれも全国最低レベルとなっています。

		運転席	助手席	後部席
沖縄	一般道	98.4%	88.3%	15.8%
	高速道	99.6%	96.9%	30.0%
全国	一般道	99.0%	96.5%	40.3%
	高速道	99.7%	98.5%	75.8%

3 県警察の取組み

県警察では、シートベルト・チャイルドシートの着用・使用を徹底するため、

- 保育園の職員、保護者などにチャイルドシート着用の重要性を指導
- チャイルドシートの正しい取付け方法の指導

等の安全教育を中心とした事故防止対策を推進しています。

44 高齢者の事故防止対策

1 高齢者事故の特徴

高齢者事故の特徴として、

- 高齢者関連事故が年々増加傾向
- 高齢歩行者の死亡、重傷率が他の年齢と比較して高い
- 高齢運転者が原因となった交通事故の比率が他の年齢層と比較して高い
- 高齢運転者の死亡、重傷率が他の年齢より高い

ことなどが挙げられます。

高齢者の事故は、加齢に伴う身体機能の低下に伴い、判断能力、行動力等の遅れを招き、事故に遭遇していると考えられます。

2 県警察の取組

県警察では、高齢者事故を防止するため、

- 歩行者交通安全教育シミュレーター等を活用した参加・体験型の交通安全教育の実施
- 高齢歩行者に対する交通安全教育用チラシや反射シートの配布
- 安全運転サポート車体験による交通安全教室の開催
- 運転免許更新時における高齢者講習の実施
- 運転免許自主返納制度の支援活動の充実

等の交通安全教育を中心とした事故防止対策を推進しています。



【歩行者シミュレーターを活用した交通安全教育】



【安全運転サポート車体験による交通安全教育】



= 令和3年 =

◎年間スローガン

交通安全 人も車も ソーシャルディスタンス

◎交通安全年間スローガン(最優秀作)

☆運転者(同乗者を含む)に対するもの

ゆとりある 心と車間の ディスタンス

☆歩行者・自転車利用者に対するもの

ママなんで？ 赤は止まると 習ったよ

☆こどもの交通事故防止に関するもの

自転車に 乗るならきみも 運転手

交通白書ダイジェスト(令和2年版)

編集 沖縄県警察本部交通部交通企画課

〒900-0021

沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号

電話番号 098-862-0110

(内線 5051・5052)

飲酒運転をしない、させない、許さない



飲酒運転は犯罪です！

種 別		罰 則	違反点数	処分内容
酒酔い運転		5年以下の懲役 又は 100万円以下の罰金	35点	免許取消し 欠格期間3年
酒気帯び 運転	0.25mg以上	3年以下の懲役 又は 50万円以下の罰金	25点	免許取消し 欠格期間2年
	0.15mg以上 0.25mg未満		13点	免許停止 期間90日

※ 処分内容は、前歴及びその他の累積点数がない場合